WASON
HQ
1104
J74+
Jan. 19
1889
No. 145

女學雜誌

一冊六錢
版權所有
當府内無郵税
各土曜日出版

明治廿二年(第百四拾五號)一月十九日發

社説

女子と宗教第二(如何なる宗教を信ずべき)○社交上に於ける情致

論説

飲食物の說附酒と烟草の害(其三)(津田仙)○海外拾藻第二(其二)(田邨武治)

批評

ぬれごろも

叢話

風流韻雅の囁み○贈物に凝つたる愛情○高尙なるたのしみ○ブンヂダ、ラマバイと米國新聞記者との問答筆記○島田三郎君通信(英國婦人改進黨大會の景況)○萬國赤十字社大會の感(七)(石黒忠悳)

小説

心の浮畵

佳傳

法學大家アウステン氏夫人(其三)

寄書

跡見女學校移轉開校第一週年祝日謹んで來賓諸君に告ぐ(跡見女學校々長跡見花蹊)○文苑

新報

女子教育の困難○女小說家續々として出づ○根本正氏○白粉を廢すべし○白楯隊の婦人大淸人民に訴ふ○印度賣淫禁止會○其他數件

外報

桑港の鍛冶女○エスキモーの女子○女子高等教育○女子の船將

小供談

附錄

○百人一首講義(第八回)經濟學第三章(財本)○婚姻說○女學讀本

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 145. JANUARY 19TH, 1889.

EDITORIAL:— Woman aad Religion.(Which is the Reliable Religion). Sentiment in regard to Social Intercourse.

LEADING ARTICLES:— Food and Drink.(Tobacco and Alcohol). by Mr. S. Tsuda. Picking While at Abroard. by Mr. T. Tamura.

CRITICAL NOTES:— "Nuregoromo."

MISCELLANIES:— "Refined Pleasures." "Sentiment Expressed in Presents." "Pleasures that are Ennobling." "An Interview." "A Letter from Mr. Shimada." "At the Great Conference of the Red Cross-Society."

NOVELS:— "Fancy's Showbox."

BIOGRAPHIES:— Mrs. Sarah Austen.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

元と通信女學のみを購讀わりたる御方には以后女學雜誌を配達いたす儀に候

●珊瑚の珠 （第九十一回）

今の世の哥よみの詞書などに某の妻をむかへられたるをことぶきてよみておくりけるなど妻を迎ふとかくと定まりのやうなり是雅言にあらず古へに然いへることなし妻をまうけとこそ書くべけれ古へはすべて男をまうく子をまうくなどといひける。（山吹の卷）

今の世に錢のうらに多く松竹鶴龜のかたを鑄つくるなり拾遺集賀の部に伊勢が詠じける歌に

千年とも那にかいのらんうらにすむ
たづのうへをぞ見るへかりける

と此歌のはじの詞にかゞみいさせけるうらに鶴のかたをいつけさせ侍るとあり。

いにしへ公卿などのむすめたちのついでをいふこと一の姉なるを姫君とも大君ともいひ二を中の君といひ三より下はつぎ〳〵に三の君四の君などいへり二人にてもいくたりにても二なるをば中の君といひわきて姫君とは一なるをぞいひける物語などにいへるやうみなかくのごとし新猿樂記といふふみにも右衛門督なる人の十六人の女のことをいへるに大君中の君三の君四の君の御許五の君六の君七の君の御許などいへり此書は藤原の明衡作れり其ころ迄もかくぞいへりけむ。（藤波の卷）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第百四十五號　明治二十二年一月十九日發兌

社説

○女子と宗敎、

二　何如ある宗敎を信ずべき。

女子が宗敎を信ずるの効能既てに斯の如しとあれば、今の日本の婦女子も亦た速やかに之を信ぜざる可らず、然るに之を放擲して無頓着に委ぬるが如きは善を喜こぶもの丶決して爲すべきとにあらざる也、故に宗敎を一日も早く信用するとを致して、扨て次に考ふべきは即はち「然らば何如なる宗敎を信ずべき乎」との一議問にてある也。

之に付て、人往々卓超磊落の象を氣取りて高く大言するものあり、曰く何如ある宗敎と雖とも善を勸め惡を懲さゞるはあらず、亦如何なる宗敎と雖ども邪惡を去り冥福を與へて衆生を濟度するとを目的とせざるはあらず、故ゑ佛敎を信ずるものには佛敎こそ其人に取りて第一の宗敎たるべし、基督敎を信ずる者には基督敎こそ其人に取りて第一の宗敎たるべし、必竟信を尤も安心立命の地を置き易き所ろに置き、之が爲に信仰歸依の念尤も堅固なるを得ば宗敎の能事すでに終れり、徒らに上戸下戸を罵つて互ひに快樂を損ずるが如きは蓋し處世の要務に非ずと云ふ、其言大通に似たる所ろあるを以て人多くは之を高しとして感服せり、而して吾人は此如き論者を見る毎に常に氣の毒に思ふ也。

今ま簡畧に其謬まりを辨ずれば、如此き辨論は是れ凡そ目的を同ふするものは悉とく其方便を問はずと云ふの愚に似り。彼の二本の足れ道を行く爲に歩む也、輿屋も道を行く爲に歩む也、人力車も道を行く爲に歩む也、馬車も滊車も皆な是れ道を行く爲に歩む也、同じく是れ道を歩むとを目的とすと云つて、世人は其步行たると滊車行たるとに頓着せざる乎、而して他人が倘特更に滊車に乘ず役々として徒らに步行するを見て之を顧みざる乎、吾人は固より其人の自由を奪つて之に滊車に乘よと迫まると能はず、然れども一應は之に奬たし、一應は之に利害を説明したし、而して文明の活世界には馬車滊車に非ずんば用を辨じ難きとをも教示したしとは思ふ也。凡そ如何ある旅行と云へども只だ家に寢轉んで運動せざるに優るが如く、何如なる宗敎と云へども之を信ずるは全く之を信ぜざるに優る（其仲間に付て比較すれば）と萬々あり、然れども世運開明し用務彌よ繁劇となるに隨がつて步行輿行の

の役に立ぬが如く、極めて舊弊ある宗教は亦迚も文明時代の役には立ぬもの也。

故に吾人は當今の女子が如何なる宗教を信ずるとも可ありとは放言せず、反つて精密に其擇ぶ所ろを定めんことを切望して止まざる也。宗教は靈魂の置場所の如し、草屋ある乎、木造ある乎、土藏なる乎、人の之を穿鑿せざるは實に愚なり、宗教は靈魂立命の地なり、其地形砂の上に在る乎、泥の上に在る乎、果た岩の上に在る乎、之を吟味せざるは實に愚也。

三　日本の宗教及び其優劣。

神道は宗教に似て實は宗教たるの勢力あらざりし也、儒教は道德論に似て實は反つて宗教たるの勢力を存したりし也、故に日本に於ける過去及び現在の宗教を大別するときは之に三個ありと斷ずるを以て至當となす、一に曰く儒教あり、二に曰く佛教なり、三に曰く基督教なり。

三教の性質を論究し、其教理を批評し、以て其の社會及び一個人の上に及ぼす所ろの影響の如何んなるを論ずるは、極めて容易ならず、然れども吾人が此處に辨ずる所ろのものは決して此如き大議論にはあらず、但だ右三教が女性に及ぼしたりし影響は果して何如ん、及び其の今後に及ぼすべき影響は大凡如何んと云ふにあり、別言するに吾人は三教の教理の何れか是なる非なるを論ぜず、但だ其の女性に及ぼしたりし及び及ぼすべきの効德何如んと云ふに在り、蓋し宗教の本論に立入て其の眞僞を辨ずるは未だ吾人が今日の責とする所ろにあらず、然れども之が日本今後の婦女子の上に及ぼすべき影響何如んと云へることに付ては、今の「女學及び女子教育」を論ずるもの、切に研究を呈すべき大問題なりとす。

然りと雖ども此の論法によつて亦た宗教夫自らの眞僞善惡を評し難きにあらず、凡そ惡しき木よりは惡しき實を結び善き木よりは善き實を結ぶべし、若し或る宗教が眞正に善なりと云はゞ、之が女性の上に於て結びたりし結果も亦た善ならざる可らず、然るに不幸にして其結果若し善あらずんば、吾人は其宗教が女性に對するの行ひ惡しかりしことを斷言して、而して女性亦た是れ男子と同樣同等の人類ありと知るが故に、則はち女性に宜しからざりしの宗教は亦た人類惣躰に適せざりしものと斷言することを猶豫せず。

封建制度は或る時代に於ては都合宜しかりしあり、然れども外國と交通するの時代となつては此の制度最早四分五裂せざる可からず、君主獨裁の政治は或る時代に於ては都合宜しか

（二）

るべし、然れども民權大ひに伸張したるの時代とあつては此の政治も亦た最早維持し難きに至らん、如此く或る宗教も或る時代に於ては暫らく女性に都合宜しかりしこともあらん、然れども既に閨門開達して男女同行せんとするの時勢に至たり、女子の教育も亦た男子と同様に大ひに奬勵せねば成らぬ時世に趣むきては、彼の一時を苟もしたる短命の宗教は最早其の効力を失ふに至るべし、故に假令ひ従前に於て多少の効能を女性の上に施したりしものと云へども、之を以て必しも今後にも亦た効能ありと云ふ可らず、況んや之れ従前に於てはすでに其の悪結果を産し、今後に於ては更らに彌よ其の弊害を現はさんとするの宗教に於てをや、如此きは固より本年以後の女海に浮ばしむべきものにあらず。

吾人は女學記者として、極て公平に三教が女性に對するの關係何如を視察し、以て其女性が信奉すべき宗教としての優劣何如んあるを判斷すべし、之實に女學上百年の大計たる也。

○社交上に於ける情緒

吾人が若年の頃には、五節句の祝ひより樂しきものは非ざりしなり、特に年頭年始の祝節に於ては、當時八九才の吾人と云へども忽ち拙者と名稱し、上下を着し、大小を帶し、扇子を右手に携さへ、左手を膝の上に尋常に置き、家來二人を召連れて禮廻り致す、明ましてはお目出度祝賀申上げます、舊年中は色々お世話に預かり有がたく御禮仕る、當年も亦た不相變御引立の程願ひ奉る、と母より敎へられたる儘に暗誦しつゝ首べを下れば、彼方も亦慇懃に應對して蓬萊の三方を恭うやしく目八分に捧げ、拙者はハハハッ有がたく頂戴いたすと兩手を擧げて之を戴だくの爲を爲。若し之を今日の少年が間窺たらば噴飯して笑ふべし、然れども吾人は當時最と眞面目に斯の如く仕まつり、然も今日尙ほ思ひ出して甚はだ優に感覺いたし、當年の情緒は復たび得べからざるかと毎度歎息する程にてはある也。

近年と爲ては都下繁忙の地に於て如此き禮式を見ると至つて稀れなり、特に一年〳〵と祝節の禮を略し、本年に至りては其の畧尤も極まれるを見たり、先づ新聞紙上に於て年頭の禮を述るものより（此人平生ハガキを以て禮を申し名札の表面に商賣柄を廣告すと傳す）、同じく紙上に於て病氣に付禮を欠くと斷はるもの（昔しは正月に病氣なとゝ云ふことを公けには言はざつたものジヤ）旅行中に付き欠禮すと申譯するも

の（客舍賀狀を認むるは詩人の情なり、日本國中到る所ろに郵便の設けある者を）入浴中湯治中燥泉中など大吉して禮を略すと辨ずるもの（而して家に留まらるゝのみか、越年のお蔭にて漸やく昨日の鬼を逃れたる人もあり）其の尤も甚はだしきは吉原流連中に付欠禮すと廣告したるものすらあるなり、扨て亦た、其の正直に年賀するものを見れば、先づ家に參つて默然たゞ名札を投じて歸るものより（斯て名札には恭賀新年と記るし當人は脚夫の代と爲つて之を持運ぶあり）、門外に車上に震るへ乍ら車夫より名札を投込ましむるもの、或は友人數名相手分して一方を受持ち一人數人の名札を持廻るもの、其尤も甚だしきは車夫人夫を雇ひて四方に名札を配達せしめたるものすらある也、而して多くは端書に恭賀新年と記して郵便に托したるが、中には之を活版に附するを反て宜しきとのように思ふものあり、去年三十一日の午後投函して年內に賀狀の到着したる奇談すらあるなり、日本當今の年賀には百鬼元日より横行したりと云ふべし。

之は是れ虛式に流れたる舊來の禮儀を厭ふの餘まり、事情反動の運に出で會ひて斯迄に亂暴無頓着となりたるならん、然れども一年中の元日、五祝節の第一に於て先づ如此くあらんには、人世一歲の多くもあらぬ祝ひ日は殆んど在るも無きが如くならん、之れ社交美術の上に於て決して容赦すべきとにあらず。

田舍に於てハ尤も繁忙なる田植の時節に至つて先づ一日の休みを爲す也、文明多忙の國柄に於ては大祭日を殊の外に大切にし公園を殊の外に立派にし遊事を特の外に丁寧にするとなり、凡そ尤も能く遊ぶ人は尤も能く働らく人也、故に日本國に於て更に安息日を大切にし、更らに大祭日を大切にし、日曜日は會堂のチヨルチベル（會堂の鐘）曉を破つて快鳴し、大祭日にはフラグ（日の丸の國旗）軒々に飜翻し、公園地の裝飾に輿論を動かし、花時月夜の遊藝に新聞紙面を埋もらすの日に至らずんは、吾人は寧ろ日本未だ開化せずと云はん。而して吾く人が殊更らに愛ふるものは彼の社交上に於て情緒の念の甚はだ乏しく爲れると也、人は泣く時もあれば亦た笑ふ時もなかる可らず、一年三百六十五日を書物と算盤とを睨んで送るとは出來ぬもの也、又決して左樣には送るまじき者也。社交上の禮式は其の意味なき所ろに於て尤も大ひなる意味あり、吾人は今の如くいよ〳〵社會を無味にするの交際に堪へず、大人は宜しく時あつてか小供の如くなるべし、哲學者は即はち尤

も小供の如くなるものぞ。願はくは社交上の情緒之より漸く温たまり、東洋風雅國の美名を永遠に存せしめんとを、而して尤も多くこれが重任を負ふべきものは即ち女性にてある也。

論說

○飲食物の說附酒と煙草の害(其三)　津田仙　述

亞米利加杯の富を致すのは、農產物を以てするので、其農產物の第一は何かならば、即ち玉蜀黍であります、彼國で鐵道に乘つて見ても幾十里間玉蜀黍の畑を見るとであります、ソーして亞米利加では、何位出來るかならば、十四億ブッセル位であります、彼國統計表に就て、明治十七年と十八年との玉蜀黍收穫高の差を見ましたが、一年間其收穫が增加したるとは七千万ブッセルで御座います、日本では過日新聞を見れば、我が日本國の同胞兄弟は一昨年は三千八百万でありましたが、本年は三千九百萬と爲つて居ります、併しながら、其食物とする處は重に米でありますが、最早我が日本は此上に水田を開くとは出來ません、夫れ故に若し此の玉蜀黍を日本の常食に用ゆるとが出來るならば、未だ之を作るに適當の田野は水田の一倍も空いて居ります、左れば日本人が今後食物に差支へない樣に依賴すべきものは只だ此の玉蜀黍で御座います、殊に今日租税を出して日本の政府が立て居りますのは水田の税が一番多いので御座いますが、此の玉蜀黍を作るに適當な地は是迄税も掛らざる荒蕪地の原野杯で御座います、餘り玉蜀黍の話を長くすると、外の話が出來ませんから、此位にして置きます。

回顧すれば、昨年の今日でありましたが、私は此の厚生館で酒の害と云ふとを演說しました、其後夫れが新聞雜誌に掲げられ、或は小冊子になりまして日本全國に播布せられ、此主義の各地方に行はるゝに至りたるとは深く神に感謝する所で御座ります、實に日本人が此酒の爲めに墮落して病を起し金錢を費すとは誠に慨歎すべきとで御座います、各所の酒店、酒樓は日增に立派になります、實に彼の敵の有樣を見れば諸君に於ては飽く迄も、之を防いで此害惡を人民に知らさなければなりません、併しながら近頃禁酒會、矯風會が各地に幾つとなく起りたるを見れば喜ばしいとであります、横濱に於ても、當月から禁酒會雜誌を出すと云ふとであります、又北總禁酒會でも遠からず雜誌を出す事になりました、斯の如く

何れも盛になつた事は喜ばしい事であります、又布哇國から此頃報知が御座いました、彼の榎本君から彼地領事館に酒樽を送られた時に、安藤總領事が其酒樽を毀したと云ふことで御座いますが、布哇國に設立した日本人禁酒會には、既に入會者が六百有餘名となつたことを報知がありましたが喜ぶべきことで御座います、夫からに先日彼の地で不思議な事があつたのは、桂馨五郎と云ふ人で、此人は法律家であるが酒が至つて好きでありました、布哇國で禁酒會に最も甚だしき敵對を爲し、種々の手段を以て妨害を致しましたが、此人が或る時餘程劇い肺病に罹りましたので、夫れから後に悟る所がありました時に、一人の禁酒會員が來て其人に話をした所が實に是迄行ふた所を悔ツーして愈よ其禁酒會に入會する式を或る基督敎の會堂で行ひました、夫れで當日は會員一同集會して讃美祈禱を以て會を開き會長安藤太郎氏が桂氏の入會記名をさせました、實に一同喜びに堪へざりしとの報知がありました、偖て如何に初めは妨げを爲す所の人でも到底眞理に勝つことは出來ません、我國にも近頃漸やく此眞理が顯はれて來て酒の害あることを世人が知りて禁酒主義の盛に世に行はれて來るとを喜びます、尙ほ酒の害に就ては御話を致し度とあれども、時間も御座いませんゆゑ、是から煙草の事に就て少し御話を致したす。

煙草と云ふ者は、皆樣御存じの通り元來亞米利加の野生植物で、我邦に於ても薩摩や小笠原島抔に野生とありて在ります、世界中でタバコと申しまするハ、亞米利加の南東の方に在る所の一のタバコ島と云ふ所から、初めて發見して、夫から是が世界中に出ましたから、遂に世界中の名になつて居ります、今我邦でも卷煙草か、或は紙卷煙草を吸ふ者に非ざれば、開化して居らぬ樣でありますが、併しながら我國の有樣を見ますれば、西洋から種々結構ある者を輸入したるので鐵道もランプも總べて皆な外國から參りました、併し何んでも皆な西洋の者は善いと云つて採るとは出來ません、煙草も矢張西洋から來た者でありますが、是は千七百三十年にコロンブスが亞米利加に行つて、其地の土人が煙草を吸ふて居るのを見て、火を口に入れて鼻から煙を噴くと思つて驚いたのが、即ち文明國人が初めて煙草を吸ふ樣を見たのであります、併しながら其煙草が段々各國に擴まつて今は世界中此品のあらざる處なく、從て其害を蒙らざるの國なしと云ふは誠に不思議ある事であります、煙草の中には「ニコチン」と云ふ毒分を含んで

居ります、其「ニコチン」と名づけましたのは、或時佛蘭西から亞米利加に參つて居りました公使がニコチンと申す名であつたが此人から自國へ煙草を送つたからして、此名を附けたと云ふ事であります、煙草の中には百分の二乃至八の「ニコチン」なる害毒を含んで居ります、日本の煙草よりは西洋の品が多く此毒を含んで居ります、又煙草の下等品には餘計含んで居ります、一本の卷煙草に在る「ニコチン」で二人を毒殺することが出來ると云ふことで、夫れは容易い仕事であります、只だ煙草を壜に入れて、管を附て管の一端を水中に入れ、熱を與へ、乾餾しますと「ニコチン」と云ふ油が取れる、其油を兩人に飲ませると兩人とも斃れる、一ポンド即ち百二十匁の煙草で、百五十八人毒殺することが出來るソーであります、夫れなら一本の卷煙草を吹へば何故其人が直ぐ死なぬかと云ふに、左樣ではありません、煙草を吸ふのは只だ其の烟を口から入れて、鼻より出すのみでありますから、悉皆躰中に止まらん故に直に毒とならぬのであります、併しながら毎日〳〵吸つて居れば其毒の爲に、自然と痲痺を起し消化を妨げ、或は心臓や肺臓を害して直接に害を蒙むらざるも自然に害を蒙るのであります。（未完）

○海外拾藻第二　（其二）

田邨武治譯

其他最も感ずべきは、家を重ずるの習慣是なり、例へば聖書中（ヂウタロノミー第二十四章第五節）凡そ男子新に妻を娶るものは軍役又賦課を免ぜられ、一年間は家に居るの自由を與へられ、專ら新婚の妻を慰むることを許さると、然と雖も今一層婦人を愛憐して家族に鄭重なるより大なる者あり、即ち男子をして自然温良なる良人となりて、其配偶を樂ましむるとは搴將奪旗の功よりも高となすの感情を起さしむること是なり、殊に又之に效ゆるに父母を尊敬するの大義を以てし、就中此條を擧げ聖誡十欵の中に措けり、曰く汝の父母を敬ふべし、汝は神の賜に由て活ける日猶ほ久しと、之を希臘法に照せば妻たるものは數ふるに足らずとして、一生復た粧閣を出で、公に良人と同權を以て交際することを得ざりし、又羅馬にては父たるものは一家の主にして、其妻孥の生殺與奪の權を掌握せり、獨り猶太人中には妻を以て一家の副主となす、尤も其父母に對する倫理を紊さんことを恐れ、常に母を以て上班に置けり、神はモーゼスに示し玉ふて汝イスレールの小兒に語れ汝等宜しく汝の神に傚て聖なるべし、而して汝當に父母を恐るべしと、嗚呼斯く人の母たるものを尊恭するに、神の命を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

以てし、且至靈の聖光に傚て父母を敬するの、大道を示すは豈亦高且大ならずや。

偖又各自齊家の法は、總て地方廳の認可する所なれども、獨り生殺の權に至りては父母も之を擅にすべからず、若し其子家法に悖りて逆を謀る等のヿあれば、父母倶に之を牽て司法官に就き、更に死刑に處す、然れども公判の以前に於て、其母必ず廳に出て、之が證人たらざるべからず、蓋し其婦人を重ずるヿ如此き所以のものは、男子をして常に其剛復の情を制するの力を養はしむるの意に出るものなるべし。

又モーセス律法中、獨り古代を睥睨するものは、彼の軍中には捕獲の婦人を待するに頗る温柔忠恕を以てせしヿ是なり、當時一般に猶太の外何れの國民にても、捕獲の婦人は皆な奴隷となし恩惠の點よりしては一毛の保護を加へざりし、試に之をモーセスが法の意に比照せよ亦以て其霄壤の差あるを見るべし、其法に曰く汝若し汝が囚徒中美人ありて汝娶て妻とせんと欲せば乃ち携て家に歸るべし、而して彼女は汝の家に留り父母と倶に一ヶ月間同居すべし、此期限の滿る後汝始て其女に行きて夫たるを得べし、其女も亦妻たるべし、今能く之を翫味すれば此中に藹然たる情緒ありて頗る囚女の悲を慰むるに足るものあり、且曰く若し斯く相親の後、男子にして其心を變ぜば速に彼女を放ち其望む所に行かしむべし、然ども決して之を鬻ぎ或は奇貨として措くべからず、何となれば則汝は一旦彼の女を愛慕せしものなればなり。

然りと雖もモーセスは未だ嘗て數妻同娶を禁ぜざるなり、第二位の妻とても又其困難の塲合に遇ふときは、夫たるものは常に之に盡すべきの義務あるヿを示せり、如此くモーセス法中到る所古代社會の殘忍なる風習を排斥して、温厚慈惠の手段に由て婦人を庇蔭せんとするの跡を見ざる所なし、凡そ男子は必ず良人たるの思念もなく一時の歡に由て妾婢を貯るヿを許さず、其待女或は家妾を買ふの習を制するに曰く若し人あり其娘を賣り人の妾となすときは、其女は男子の如く、野に出で、働くヿを要せず、且其主を好まざれば主人は女をして自ら償はしむべし、決して之を他人に販るヿを得ず、又若し主人にして其子に娶さんと欲せば宜しく其女を待つヿ自家の娘の如くすべし、又主人若し重て妻を娶る時は彼女の食料衣服其他婚姻上の義務に關して要すべきものは、一切之れを減省するヿを得ず、萬一主人にして此三箇條を實行せざるに於ては、彼女は既に自由を得たるものにして償金の義務なし。

(八)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

事實上より看るに此法は凡て妾たるものにして、自ら正妻たるべきの權利と責任を有せしめ、且主人をして猥りに感情に訴て愛憎を異にし、以て殘忍酷薄ある取扱をなさゞらしむるに在り、又姑く法を男子に尋んに、凡そ男子は同母姉妹を娶るを得ず、其理最も第一妻の情を酌むものあるが如し、云く汝は彼女の妹を娶る勿れ、恐くは彼の女をして一生の悲を抱かしめんと。

又數妻を娶りて、各々其出ありて相續權を與ふるに際しては之を擧げて、自ら寵愛するものゝ子に許すとを得ず、云はく人あり、兩妻を有し甲を親愛して乙を疎んず、而して甲乙共に其出あり、然ども嫡子たれば、假令ひ其疎ずる所の出なりと雖も之を斥けて、更に相續權を以て其愛する所の初出に讓るとを得ず。（未完）

批評

○ぬれどろも　（美妙齋著。　金港堂版）　しのぶ

まだ一卷しか出版されないで、之から何のやうな御趣向があるかも知れぬものを、途中で彼此と申すのは失敬の至りです。然し兼て廣告せられたる文に、主人公は四歳から十二歳迄の男女二人の小兒（第一卷で十一歳十二歳迄になりました）種類は世話物骨子は親子、親子の情と小供の心、これが此の小說の眼目としてあれば、先づ之を頭ひの下に置いて見れば大した失敬なる誤まりもあるまじくと思ふ。

第一に注目すべき所ろは、著者が子供の心理學を研窮して其の幼ならしひ樣姿を寫すとに勞せられたる一事です、之は日本の小說家が未だ得て筆を下し能はざりし領分であれば、著者が先づ勇を鼓して茲に先登せられたるは敬服の事です。極めて無遠慮に申せば、どうも此の小說の子供は概して子供と云へば云はるゝが、其の時々の年齢に當てゝ見れば甚はだ不思儀です、七八歳の時も十一二歳の時も差して變つたる趣きがなく、たゞ彼れも此れも一言して子供の樣姿だと云ふの外ないのが殘念です、然し先づ其の巧みに寫されたる所ろ及び中々勉强して觀察されたと思はるゝ所ろは、

阿満も今は堪囘ね慌てゝ前垂を取つて目を拭へば阿露も人眞似前垂を取つて顏に當て片眼を出して母親の樣子を見て居ます（九十二頁）

親たちの愁歎をば等分に見合はせて居るあどけない人は益々固有のあどけなさを充分に現はして（九十四頁）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

豚尾漢なんぞ……否だイ（百九頁）

此の三ヶ所が最頂點で其他に倘ほ多くあります。特にお露が曲つたる氣質、淸か應揚なる氣質は、何れも家庭養育の決果として十分に現はれて居るが、たゞ此の淸の如きが那のような父母よりして出で來るとは少し驚ろくべきです、父ハ餘程意氣地のない人物で免職になつた曉き亙燵辨慶の慷慨もおかしひ中に「乃公も」「何ぼ何だつて人を馬鹿にするも大概に：：口惜しいちやァ無いか」口惜いと思ひ且つ口にするほどの男こてです、尤も母親の方が少し立優つて居るようだが、其の合槌を打つ有樣を見ば之も左程の賢母でないです。而して淸ハ是れアッパレの鳳雛です、况んや其の景色を見ての感慨の如きは既に是れ十八九歲の才力を十分に現はして居るです。

美妙齋の巧麗なる筆力は、余が夙に敬服したるとて、中にも其の美妙を寫す所ろが尤も感心いたす所ろであるが、但だ其間だに於ていつも不快に感じたるとがある、之は多くの高倘なる讀者が同君の文を讀下すうちには定めし必らず感ぜらるゝであらうと思ふた所ろの事で、即はち時々に下卑たる文句の混じ居るとです、喩へば叙し去り叙し來る阿房宮の賦に一寸つと「そして此の窓にチンメが見へる」と云ふた樣な文法で、切角に觀念し來つた美妙の樓閣が俄然として之が爲に倒れるです、假に此書に付て例を擧れば、

言掛て莞爾となる母親の笑ひの中からは億萬磅の權衡でも量り切れぬ恩愛が、涎と共に垂れて居ます（十五頁）

大雨に一疋の蟻を助けても嬉しく思はれるものですのに、今は哀れな、いとけない、罪もない莟の花を、嵐の手から身請したのですから（六十一頁）

如此き所ろあり、然るに此の一事ハ兼て無頓着に御忠告も致したるが、此書に至りて右の癖が大ひに減じたるは、實に文學上に取つて祝すべき至りです。

次に美妙齋の筆力に感ずべきは、其の天然物の美妙を寫す所ろです、例せば春の朝たの霞み、秋の夕べの野嵐し、と云へる如き極めて寫しにくき漠然たる風光を、極めて高倘麗壯に寫すのが君の長所である、「武藏野」「壇浦」等の慘憺たる景色は、力弱き言文一致躰の句中に躍り立つて居る。故に此書に於ても、第三十七頁冬の朝たの凜烈たる絶景、第五十六頁古井戸草の覆ふ所ろ、第八十七頁玉瀉家の夏景色、等何れも巧妙なる寫眞と云ふべし。然るに此の例の長所に一任したるが爲に本書に於ては大ひなる失策を爲したり、彼の淸が勾引さ

れて赴けりと云ふ廣東の片田舍は、如何にして見るも支那國中に於ける摸樣とは感ぜられず、矢張り日本國の或る所ろに於ての出來事としか感ぜられぬ、之は天然の景色即ち支那にも日本にも同樣なる所ろの天然の景色のみを寫して、扨て兩國を異にする者たる彼の人造の景色を寫さゞりしが故の誤まりて、切角小說の規模を大にしたる趣向が、殆んど兒戯に類して仕舞た、之れ實に遺憾です。

美妙齋の長所は時代物にあり、而して之は世話物である、美妙齋の筆力は變化慘憺の事に巧みなり、而して之は溫愛淡泊の二難物を寫すのである、恰かも是れ春の舍主人が愁歎物を作り、二葉亭主人が世話物を作るの類で、初代の小說家の任ずる所ろは實に敬服すべきとです。余をして若し勝手に注文せしむれば、春の舍君が滑稽本世話物を作り、二葉亭君が慨世談愁歎物を作り、美妙齋君が風光詩時代物を作り、南翠君が遠征錄日記物を作り、而して學海、半峯、忍月、不知庵の諸氏が精密に批評するの時世と相成り、忍は獨り樂しんで拜見する樂な閑な身分となりたく願ふのです。

人の心にある謀計は深き井の水のごとし然れど哲き人はこれを汲出す

叢話

○風流韻雅の嗜み

一月十日以后三日の朝野新聞は、在英國尾崎行雄君の報告たる「風流韻雅の嗜み」一篇を載せたり、乾燥なる日刊新聞に於ては稀に見る所ろの雅文にして、特に朝野新聞に於て之を讀を得たるは大慶と云ふべし。其篇最初に拜金宗の陋しむべきを難じて、次に日本國民の思想を高尙韻雅ならしむべき小策五事を擧たり。所云る五事とは、新事の賀札に詩畵を地刷にする事、誕生日の賀札にクリスマスカードの如きを用意する事、生誕書即ち西洋風の名家の詩もしくは折節の花畵を割當たる生誕書を作り置き友人の誕生日を記入して其折々に賀狀を送るの用意を爲す事、花譜を編みそれ〲の花に情意を定むる事、詩畵合卷を作り兩々相併ばせて畧外の意を說かしめ且つ此卷を珍重する工夫の事なり。此等の事は邦人中凡そ西洋志想あるもの丶夙に行ひ居るとなれども我國人の多くが此の如き雅事而も新文明の愛情を凝めたるの如此き雅事を面白がるに至らば、女學界一段の進歩を了れりと云ふべし。

尾崎君は此篇の第二に於て曰く、

女學校にて風流韻雅の思想を修養するには…詩歌畵樂等

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の形式を敎ゆるよりは却つて其趣味を解得せしむる様に盡力するを要す。其趣味さへ解得して詩思書情に富めば之を賦し之れを書く能はざるも可なり如何に形式を學んで詩書を作るも其思想なくんば何の役にも立たぬなり然るに從前の敎育法にては單に形式のみを敎へて其趣味を悟らしめず故に文字をば巧みに並ぶれど頓と詩思なき詩人あり山水をば可なりに摸倣すれど更に書情なき書人あり此輩は文字をば並ぶる能はざれども詩思を有し山水をば作る能はざれど書情に富める人物に劣ると遠し甲は機械的の働きにして乙は精神的の働きなればなり

之實に尤も賛成を表するの論たり。君は亦左の如く述懷したり、

特に萬里他鄕に在りて居常寂寥を嘆じ天下の廣きも其誕生日さへ記臆する者なかるべしと思ふの際故園の知己朋友生誕書を披閲して端なく某月某日は某氏の誕生日なるとを知り之ゑ寄するに祝意を表するの賀札を以てせば天涯孤客の身に取て如何に嬉しき事なるべきぞ、大丈夫志を立てゝ萬里海外に航す何ぞ雨を傷み風を愁ふる深窓婦女子の情懐あらんやなどと威張る者は眞成の大丈夫には非ずして無情の怪物なるのみ

實に然り、日本には兎角史記列傳の英雄が多くて閉口致す、眞成の大丈夫は眞成の勳爵士なるものぞ。

○贈り物に凝つたる愛情　　みどり

私しの友人が此頃ろ暫らく古鄕に歸るとて私しに別れて參りました、途中に於て船に乘らんずる際み、偶と面白き梅一枝を見出して之を私ゑ送りました、私しは此の年頭年始の遣ひ物に取圍まれ、俗氣紛々たる間だに胸を惡ろくして居ましたが、之を見て思はず精神のすが〳〵しくなるやうに覺へたとです。凡そ人に物を贈るは心中の愛情のしるしだと云ふとを覺悟せねば成りませぬ、或は若木の莟に短札を結び付て

さかぬうちに君に送らん此の花は
　　こめしにほひを君につげよと

遠國より貰ひ受けし魚一尾を半ば割つて、

半ばは私しが頂いて遠友の情を味はひませう、是非君にも味わゝせて遠き友人の思ひを察して頂きたく又た遙かに君と晩餐を共にするの樂しみを得たく候、それゆへ之は今晩是非御料理なさい私しも左樣いたします。

如此き送り遣りが實に望ましひです、鷄卵一箱は七十五錢でせう、鰹節一包は高くて一圓でせう、然し愛情は無量です、

私しは金錢を代表する贈り物を蛇蝎の如く嫌ひます、愛情を代表する贈り物を天の使の如くに愛します。

○高尙なるたのしみ、　もみぢ

海防費を募り、學校資金を集る錦囊策

當世の音曲は大抵面白からず、特に書生などには欠びの種で、淸潔なる人魂しひ高き人には耳を痛むる斗りです。三味線鼓弓月琴の如きは悉とく此れ糸が響くのみで、琴笛尺八の如きすら高壯には聞えないです、况んや彼の踊の如きは何の意味か分らず、落語講釋義太夫の如きも未だ感心するに足らぬ、一言するに、當世の日本の音曲歌舞は皆な器械的です。故に口に歌ふもの、手で奏するもの、足で踊るものはあるが、其の心に於て否な其の魂しひに於て歌ひ奏し踊るものはない、之を以て亦た耳には聞へる、目には見へる、たま〳〵泣くとしても目の上では泣ける、更らに深く入りて漸と胸に於ては泣ける、然し魂しひの奥に於て聞きて、涙を魂しひの奥に於て垂らすべきものは一つも無い、况んや魂しひを引立て、鼓舞し、高尙にするものに至つては皆無である。故に吾人は今の日本美術界を見渡して殆んどサハラの原頭に立つたる心持が致す、此の大砂漠に於て吾々を養ふものは天より下る甘露の外に只一つも無いです。

此の中に於て先づ〳〵可成りに聞けるのは、海陸軍の軍樂及び女學校生徒の音樂唱歌である、一は豪壯悲慘で、一つは優美麗極、一は大勇士を動かすに足り、一は大聖人を泣かすに足る、今に於て先づ此の二つが存すれば他日ケーナンに達するに其人なしとは云ふ可らず、甚はだ望みあると思ふです。たゞ恨むらくは此の豪壯なる軍樂も、此の優美なる唱歌も一般の人には聞かれないので、夫れが美術上何よりもの不幸、國民道德上に亦何よりもの不幸である。

故に吾人は一策を呈します、此に西洋風の音樂堂を一つ仕つらへ、彼の樂隊なり女學校の生徒なりが代る〳〵之を借りて奏樂唱歌をしたらば善いです、音樂堂は公園内に設けさせて頂だき、毎日午後五六時散步の頃より會を始じめ、一人二三錢で入塲せしむるときは實に幸福です、而して其の入金は海防費もしくは女學校の校用に遣ひます、井上圓了君の國を富ます策よりも結搆ではありませんか、一方には美術を奬勵して、一方には黄金を集めます。

之は楷行社水交社又は宣教師方の女學校が斷行すべき所ろでせう、何よりも先に音樂學校の博士達が奮發なさる所でせう、

今の如き美術は實に吾々の魂しひを破ります、碎きます、殺します。

○プンヂツタ、ラマバイ米國新聞記者某氏問答筆記（二）

答。且つ私しは基督が私しに敎へられたる如く亦た約翰を通うして私しに敎へられたる如くに左の事々を信仰いたす也。即はち神は靈あり光あり愛ありと云ふ事而して其の三様の御性質に於て宇宙を造り輝やかし支配せらるゝと云ふ事、神の子たり神の僕べたり而して吾々の信仰の爲に使徒となられたる耶蘇は神の子供等の救ひ主並びに導き手として神より遣はされたる者なる事、故に神を信ずるものは神の子たるの權を與へられ彼の基督に依りて吾々に送られたる大なる賜物たる淸靈は吾等の導き吾等の慰め手とならるゝ事、世上にはたゞ一つの敎會あり耶蘇を救ひ主と承知する所ろの者は皆な此の一つの敎會に屬す而して此の敎會とは即はち基督の躰にてある事、何人にても凡そ彼等に與へられたる光に從はんとを正直に試ろみ勉むる所ろのもの及び基督の靈に於て現はれたる天の父の御心を爲さんとして正直に試ろみ勉むる所ろの者は遂には天の父と天の子とに屬して一躰となるべし喩へば天の父と子とが一躰なる如くに迄で吾等も一躰とせらるべき事、如此く信じ又私しは救主が吾々に信ぜよと敎へられたる如くに彼の天父の外に眞の神なき事此の神が送り玉ひたるは耶蘇基督なるとを確信す、凡そ此等の事に付ては私しが考ふる儘を正直に告白するを少しも恐れ申さず、凡そ私しは信仰にも必らず改良の餘地ありと信じて之を否み申さゞるに付私しの朋友及び善を樂しむ人々の祈禱を之が爲に望ましく候、私しは信仰いたす凡そ私しの救ひに必要なるものは必らず與へらるべし故に私しは熱心に神に祈る願はくは私しをして眞理を求むるもの追ふもの且つ神の御心を爲すものにてあるとを許し玉はれとは祈る也。

問。人々の申す言に由れば貴君は彼のベダ、シャスタ（共に印度の敎理敎式書）等を聖書と同一の權力あるものと認めらるゝ由あり然し今ま貴説を承はつて相考ふれば此の如き評判は蓋し誤まりにて候ひしならん。

答。何如にも誤まりにて候、固より全躰の上より論じてベダ、シャスタ等を聖書に併行すべきものとは申さず、然し私しは尙ほ考へ候ベダを初め印度の其他の聖經書類には善き事多くあり彼の聖書中に存するものと同樣に善きものが多くこれ有りと認め候、例せば先づ道德上の規則に付て申さんには此の

道德上の事に付てはベダを初め其他の印度の聖經書中に全く之れなきものが聖書中に之れ有りとは信じ申さず、此の一事は或る智識ある人が印度の聖經書類を吟味すれば眞に然りと承知いたすべしと考へ候、然し若しよく此の印度の聖經書類を讀みて見れば彼のマルカスアウレリアス（羅馬皇帝にして哲學者たり）エピクテアス（フヒリシアの人にして亦た哲學者たり）プラト（希臘の哲學者）其外の聖人達が尤も美しき尤も神聖なる眞理を話したる如くに此處にも亦た其敎なる言語はあり乍ら、彼の新約全書より人類が受取つたる如き光と愛と望との左樣に多くをば決して何如ある他の元因よりも受取り爲さゞりしと斷言し得るは喜ばしく候、故に私しは印度の聖經書類中にある善き事を悉く信ずる間だにも凡そ神の方に人間を高め得る所ろのものは決して此の書中にあるなしと信じ候、左れば神と人との關係を何如なる人々にも分明にあし如何なる人にも神の如くとは爲り得さするほどに明らかにせられたるは即はち基督が世に出で玉いたる明白なる使命なりと信ず、故に昔しの諸ろの聖經書は愛すべき美しき多くの敎へを吾々に與へたりとは云へ基督の新たなる惠みは即はち此の既に與へられたる敎へを實際に行ひ得るに至るの惠みを吾々に與へられしとと信ず、從來の敎へは喩へば蒸氣器關の如く立派にして且つ色々の事を爲し得べきものなりし然るに基督と其の福音とは即はち蒸流となり彼の器關をして運轉せしむるの動力となりしものと信ず、基督が我は律法を充たす爲に來れりと言はれたるは其の意義即はち是なりと存ず、凡そ永遠の律法は凡ての時代凡ての場所に於ける凡ての善良の民に兼て與へられしが基督は即ち其上に聖靈を與へ斯くして律法を充たさしめんとて來り玉ひし也、故に昔しの律法は躰にして基督の新しき法は靈也此の靈が否らざれば死してある所ろの躰に置かれて此の躰即ち生くる所ろの魂しひあるものとはなりたるとと信じ候。

〇島田三郎君通信

英國婦人改進黨大會の景況（其二）

次にトラヴエリアン氏愛蘭の事情を述べてアパルチーン伯爵婦人の發議を賛成したるが此時グラッドストーン夫人は都合によりて退席せしかばアパルチーン伯爵婦人代りて會長の椅子を占めたり夫人起ちてツリヴアン氏の發言を請たり氏は愛蘭撰出の國會議員にて其前には同島ダブリン府の府長となり少年の時より雄辨の聞へあり嘗て頻りに英人を疾視する

の演説を爲して自治黨を鼓舞せし人なるが今回の年會にはグラッドストーン氏と共に英國の中土の府に入り伯爵夫人の紹介によりて英國公衆の前に愛島の悲況を訴へ且英國改進黨が愛爾蘭を庇輔するの恩義を感ずる旨を公言したるが其演説聽衆の感情を動かしたり此他當府婦人改進黨の内兩三名の演説ありて會を徹したりアベルヂーン伯爵夫人が其演説と云ひ會場を支配せる技倆と云ひ婦人の態度を失はずして能く公事を處理したるには滿場感じ合へる摸樣なりき三年前グラッドストーン氏がアベルヂーン伯爵を愛爾蘭の太守に任ぜしに際し當時の新聞中夫人衆を服するの力ありグラッドストーン氏其内助あるを見て伯爵に此任を托したりと云ひし者ありしが小生此會場の狀を目擊して夫人の技倆他に抜づるを知り又英國に於ては學校會議員を撰擧し學校會議員となるの外は直接に婦人公事に與からずと雖間接に政治を動かすの勢力あるを覺り申候當時の首相ソーリスベリー侯の夫人も亦極めて有力の婦人にて内助の功多く侯の眞の秘書官は夫人なりとは英人の能く言ふ所に候又グラッドストーン氏の夫人は名望氏に次ぎグラッドストーン氏が其天才を伸べ全力を社會に盡すを得るは夫人の内助多きによるが故に氏が一生の功に對して謝する者は併せて夫人の勞を謝すべしとは屢々公會に於て同黨員の言ふ所に候抑婦人改進黨全國聯合は千八百八十六年に初めて成り立ちし者にて是より以前英國ヨーク州に於て此組合起り續て各地に起りしも通信の定則なかりしを以て各地獨立の姿なりしに千八百八十六年五月十九日一地に集會して聯合の組織定まりしが其時議決の綱領は左の如し。

第一　改進の主義を國政に採用せしむるに力むべし。

第二　婦人に關する正當の立法を求め少年の利益を保護すべし。

第三　集會、講義、文書の頒布によりて政治上の教育を進歩せしむべし。

第四　各撰擧區に於て婦人改進社を起すことを力め又現に存在する改進社に婦人の入社を許諾せしむることを力むべし。

第五　婦人の入社せる改進社を協同し其協同の力によりて國政の改正を奬勵するを力むべし。

此總長はグラッドストーン夫人にて各地には各地の事務を爲し毎年一回聯合總會を催すを例とするが今年は之をボルミムハムに開きしなり先は近事の大略のみ匆々頓首

嚴本善治様　　嶋田三郎

○万國赤十字社大會の感（七）　石黒忠悳述

大公に御別れ及び赤十字條約註釋呈上の事　第六日（九月廿七日）此の夜ハ會員一同幷に近國の貴顯名族都合三百餘名をバーデン太公の城内に招かれ、奏樂饗應等が有つて、多勢の來客に一々御話しが有つたが太公妃殿下ハ日本委員に仰せらるゝには、卿の國でハ赤十字條約註釋を兵隊に分けて遣すそうだが、誠に結構の事で、歐羅巴各國に於ても何卒其の樣に致し度き者で有る、日本委員は御答へ申すに、私共數日カルヽスルーエに於て厚き御恩を蒙り、數々日本を御譽め下さるる御言葉を承り、實に感銘致します、私共日本に歸つた時は詳らかに此の模樣太公妃殿下が赤十字事業に御熱心なる事を我皇后陛下に奏上し奉らば、同じく此の事業に御熱心ある　皇后陛下は、定めて御滿足に思召しめさるゝ事と、私は樂みに致して居ります、私共明朝を以て此地を出立致します故に、紀念の爲めに我國兵卒に分配する赤十字條約註釋一冊を殿下に奉りませう、殿下の健康ハ、赤十字事業の爲めに特に祈る所で有ると、王妃殿下ハ曰く、悦んで卿の意を領す、赤十字條約註釋ハ貰つて置いて、卿の國の赤十字事業に熱心なるを思ひ出そうと仰せられました。

クラ、バルトン別言の事　此の夜會員は互に赤十字事業の擴張を期し、手を握つて別れを告げた、ソレは何れも婦人ヌ關係も御坐いませんが、只一つ先刻申した米國の婦人バルトン夫人曰く、私の國とアナタの國と鄰りして居る、貴國は之れに同盟し、婦人看護會抔を立てゝ益す事業を擴むる事は、誠に悦ぶ可き事で有るが、尙一層務め勵みて、亞細亞全般に及ぼす樣に致して下さい、左すれバ此の事業ハ全地球に普及したる者で有る、願ハくはアナタが歸國したならバ、人民をして倍々此の志しを奮ハしむる樣に有りたい、流石ハ交際家丈けに、支那抔と猥りに國の名ハ指さ無い、鄰邦に同く及ぼさん事を乞ふと云ふて、別れました。

赤十字總會にて婦人に關して記憶に止る事は、大概此の位です、食卓上にて薔薇の花が赤いとか、百合の花ハ白いとか、箸にも棒にも懸りません事は、先づ除きまして、只今申したる所は根の有る事で、皇后陛下にも既に申上げたる事で或ハ貴婦人方の御交際の御參考にもならふかと存じましたから聊か申上げたのです。（未完）

身を正しくして步履む義人ハその子孫に福祉あるべし。

小說

○心の浮書

フハンシース、セウボックス（第一）

湘川漁夫譯
ホーソルン著

罪とは如何なる物なるぞ、人の心の汚點の痕、さらばいかなる事なるぞ、外に現れ見えずとも、潛に計り企てつゝ、心の内に隱れ居る、邪なる念をさすなるか、又は手の上に出で來りて、免るゝ方のなき迄に、其迹の既に顯なる、惡しき業をば言ふたるか。世の法庭にて責め問ふは、現れ見ゆる事のみなれど、業は思の影にしあれば、落ち漏るゝ所なき、天の法庭に呼び出だされ、其前に立つ時は、罪の念の數々は、皆悉く糺されて、嚴しき糺問を受くべきか。さある時は是れ身の上の一大事。密かなる閨の裡に臥し、靜かなる野の外に彳み、あらたかなる神の宮にありても、時により折に觸れ、動もすれば恥づべき念の起るとしらば、如何で亦た嚴かなる、天の審判を免るべき、實に恐るべき事ならずや。

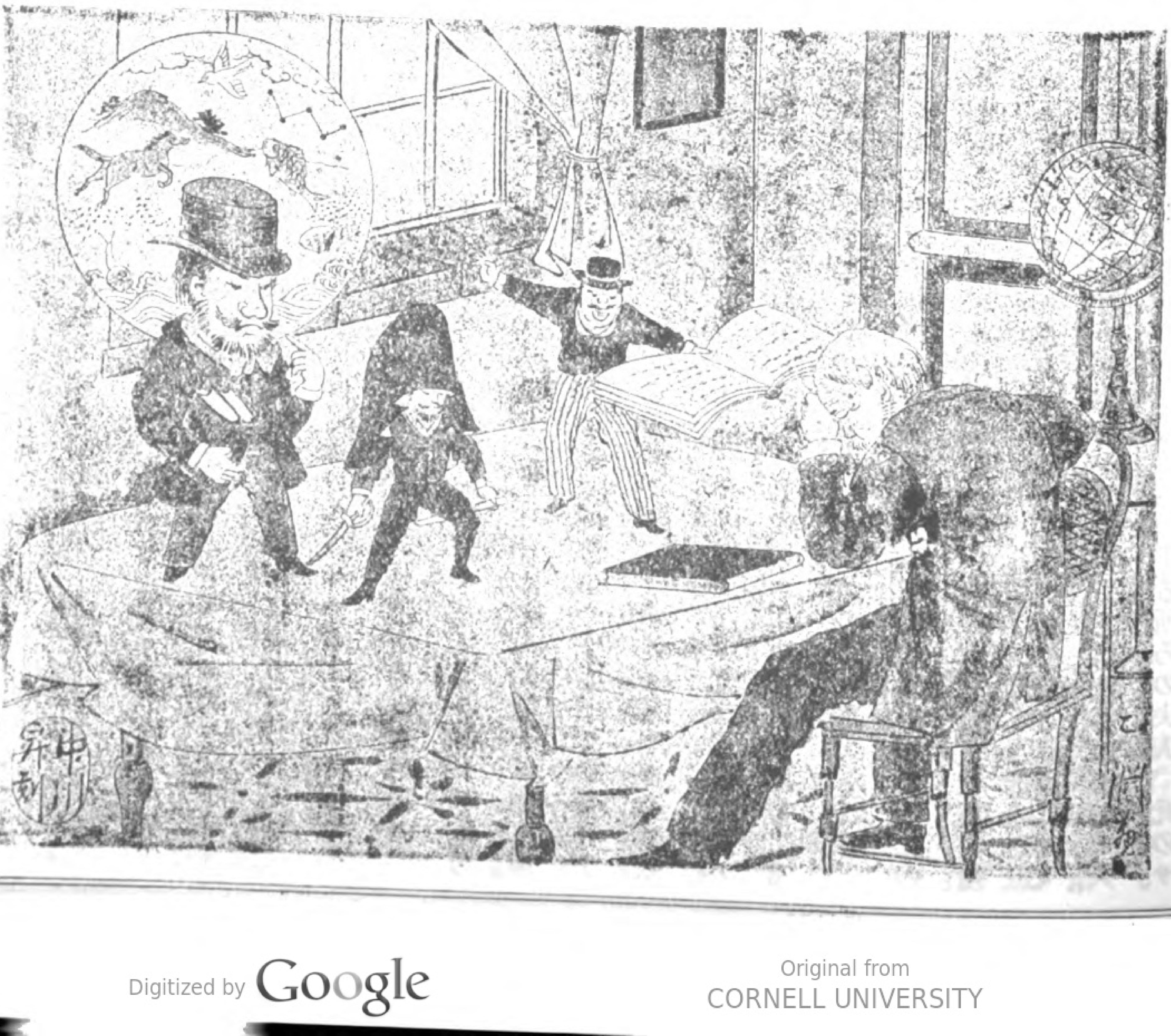
今假に例を設けて此意を寫し出ださん。名をスミスと呼びて常に世の人に敬はれ、善人の模範として崇められたる、行ひ正しき老人ありけり、子供は今職業の爲に家に在らず、孫等は皆學校に行きたる後なれば、獨り靜かに、安らかなる腕倚子の內に身を埋め、マホガニイにて作れるデスクの下に足を入れ、マデラの葡萄酒一二杯を傾け、衰へたる血を溫めんと試み居れり。或る老人は獨居の物淋しきを恐れ嫌ひ、語らふ友のなき時は、床の上に臥し居れる、小兒の寢息をきく事すら、猶ほ喜びとなす者あり。スミスの心は其髮の毛の色程淸く、汚れたる處ありとするも是は人情普通の弱點のみなれば、殊更に罪なき小兒の力を借りて心を慰め、又は我れと我が本心の間に中保を賴みて、身を守る程の用もなし。されば「盛年」の來りて語り慰め、「幼稚」の側に戲れ遊ぶにあらざれば、老人の思は、自ら過去の彼方に彷徨ひつゝ、感情坐に起り出で、如何なる美酒も、之を破るに力なし。スミスも今かゝる思に、沈み居りたるならんと思はるゝ頃、淸らかなる玻璃杯を透き通して、向ふの方に現れ見えたるは、三人の姿なり。前に進めるを「想像」とよびて、態といひ形といひ、又其背に箱を負ひたる樣子といひ、旅稼の見物師とも見つべく、其次にあるを「記臆」と名づけ耳の上にペンを挾み、ボタンの穴にインキいれを掛け、脇に大帳を抱へたるは、商家の手代ともいふべく、最後にありて煤びたる色の外套にて、身をも顏をも深く覆へるは、スミスは早くも心付き是れ「良心」なる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

べしと悟りけり。

此身も酒も諸共に、若かりし時よりは、氣も味も拔けたりと老人は心もふさぎてありたる時、深切にも三人の客は訪問ひ來れり。窓に掛けたる猩々緋の日覆は、日光を遮り、其影むら／＼として、部屋の内は暗きが如く、又明かなるが如し。三人は共に前に進み來り、「記臆」は帳に手をかけて右の方に坐し、「良心」は尚も深く顏を藏し、老人の心臓の方に身を寄せて、其左に座し、「想像」は机の上に箱を置き、目鏡を出だして前に立ち、外より糸を引く毎に、色々の畫は箱の内に現れ來り、其浮き出でゝあり／＼と見ゆる狀はさながら活きてなづるが如し。

其一つは月影の景色にて、後の方には低き小屋あり、前の方には立ち木あり、半木の影に隱れつゝ、さら／＼と月の光に映りて見ゆるは、若き男女の姿なり。男は立ちつゝ腕を拱き嘲る脣も、見下す眦も、共に恨を含んで見えたり。女は其前に跪き、恥ぢ苦の重みに堪へ難くやありけん、願言せんと合せたる、手をも上げ得ず目をも又、地の上にのみ注げる儘なり其優しく、麗はしく、又た隣にも、震へて居たる姿さへ受け引かぬ男の心をば和げ寛むる樣子もな



し、其躰其風、恨めしふ物の形を具へてをりたらば、此男の如くにあるなるべし。スミスは目鏡に目を寄せて、中の浮畫を窺へば、小屋といひ、樹といひ、人といひ、不思議にも皆見覺えありて、若き男の容貌は昔屢々鏡に寫し、紛ひもあらぬ我が姿、又其女と見えたるは、我初戀に思ひ初めし、マルサ、バローにてありたるなり。スミスは忽ち頭を掉り、「何事ぞ此不躰裁、罪なき女子を何時苦めし、十七八の頃ほひに、ダビド、トムプキンスの愛を得て、マルサは其人に嫁ぎしより、樂しく暮らし居りしに非ずや、夫の死せし以來、人々に敬はれ、未亡人となりて過ごせしにあらずや。」と頻りにいらだちいひたるをきゝつゝ、「記臆」は、覺束なき樣子にて、帳面を一枚〳〵繰り居し、舊き筆迹の中にて漸く探し當り、老人の耳に口をよせ「是は行には出でざりしが、曾て心に浮みたる、惡しき念の姿なり。」と讀みきかすれば、傍なる「良心」は、忽ち外套を脫ぎ去て、顔を現はし、懷なる劍を拔く手も見せずスミスを執へて胸の邊をしたゝか刺せば、命に係る程ならねも、悶え苦む有樣は、深手の傷としられたり。（未完）

金もあり眞珠も多くあれど貴き器は知識のくちびるなり。

佳傳

○法學大家アウスチン氏夫人　（第三）

扨て既でに斯く出版することに定めましたが、然らば誰が其の編輯を擔當すべきやと云ふに、兼てアウスチン氏の文字文躰は余程分かり惡くきもので、極めて綿密に調らべ極めて熱心になつて之を推諒せば初めて漸やく其の一部分を諒解し得ると云ふほどであつたから、中々誰も之を擔當する人がない、ベンタムの如きミルの如きも皆なアウスチン氏の弟子であり友人であつて共に此の編輯出版の事を賛成はしたが然し誰も亦た之に自から當らうと云ふ人が無い、若しも彼のルイヂウモントの如き熱心家があつて、多年を之に一任したらば或は出來るかも知れん然し之でも尚ほ覺束ないと云ふ程に六かしひ所ろの骨折であつたから、既に之を出版すると定めても次に編輯を何如にすると云ふことに付て大ひに當惑したです。然るに前のベンタム、ミル等の諸友人が忠告するには、此の編輯者は、アウスチン氏の名譽を尤も深く掛念して、其の殘したる原稿を一葉にても失なはじと覺悟し、尤も忍耐したる尤も尊敬したる注意を與ふるの人でなくては迚も出來ぬ、夫には即はち此のアウスチン氏を最愛する所ろの夫人、此のサ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ラアウステン夫人にあらずんば決して出來まじと申した。特にアウステン氏が一生の友人某夫人にすゝめて言ひけるやうは、

之れは眞とに大ひなる而も困難ある勞力でありますが、然し夫故に若しアナタが躬から之を爲されねば終に決して出來ますまい。

斯樣に言はれて、夫人は遂に斷決し自身が此の大任を擔當するとに定めました。

尤も夫人が如此く猶豫ひたるは、決して其の勇なき故に由るのではない、實に尤も切に尤も深く亡夫の功業に心配したる故でありました。而して既に一旦斯く決したるのちは自から勇を鼓して大ひに覺悟されたが、後に至り其時の覺悟を法理學書の序文中に記るして云く、

四十年間妾は良人に尤も親密に伴侶したれば、妾が生ちの泉として之より眞理を引出したる彼の良人の心に、不斷に充滿し居たりける思考の道すじを追窮するの手立をば與へられたるようにも思はれ候、左れば良人が半ば言掛たまひたる言葉も妾には其の意味を推察するとを得、他人には全く了解されざりし言語も妾には能く諒解せられたり。

此の四十年間には、妾が爲し得たる最と小さき御助けをも良人は喜んで之を待ち玉ひき、左れば良人の心に充滿したりし問題、而して其問題は只だ良人の心に充滿し居ると云ふの譯にて深く私しにも面白かりし所ろの其問題に付て、私しに讀聞かせ話しきかせ玉ひしほどの事ありき。

左れば文脉文章によりて名譽に增減あるほどの記者、即はち美術者としての才能勞力を有したる人の遺文章あらば、其の人の手によりて琢磨せられざりしものを出すは悪しかるべし、寧ろ之を其儘に埋沒するこそ或は宜しかりしあらん、然るに吾が良人の大功業は斯る文章文脉などの中に包まれ沒するものにあらずして更らに其外に超脱する大ひなる精力あり、

良人は實に世上の害毒多き誤まりを正し、暗黒たる眞理に光明を點し、人世に最大幸福あるの考慮を公告し、若し文脉に注意せしと云はゞたゞ其の意義を可成く明白に可成く精密に現さんとの一念にて文脉に掛念せしに過ぎざりし

如此くあれば、妾は遂に自から當りて此書を編輯し出版するとに決心したり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

如此き覺悟を以て夫人は遂に其編輯に着手せられた、凡そ編輯の苦しみは著作の苦しみに劣らないもので、若し著作が出產の苦痛であらば、編輯は養育の苦痛であらう、況んや良人の功業として毫末だも世に空しからしめじ、其の高尚なる思想の跡をして一字一行だも世に沒せしめじ、と掛念しつゝ戰々兢々として之を編輯したる夫人が苦痛に至つては更らに一層であつたであらう。然し亦た樂しきは彼の四十年間日々夜々の偕老の友はすでに塵芥に歸したが、其の思想、而も其尤も高尚なる思想を書留めたる原稿は茲に殘つて居る、之を誦すれば自づから彼の人の聲を聞くように思はれて、昔し此の學窓の下に於て妾わよ辛苦經營されたる思考の料を語り玉ひし其上を思ひ出し、北天を望んて切めて舊情を慰すると云ふ、極めて切なる所ろの慰さめが得られたであらう。斯てアウステン氏死するのち三年にして法理學書第一卷出版せられ、更らに三年よして第二卷出版せられ、見らるゝが如き此の二卷の大著册は今日に現存し、非常莫大の功德を今の法學社會に與へて居るです。（終）

人のよろこびハ施濟をするにあり貧者ハ識人に愈る

寄書

○跡見女學校開校第一週年祝日謹んで來賓諸君に告く

跡見女學校々長　跡見花蹊

回顧すれハ昨二十一年一月八日皇族大臣及ひ貴女紳士の來臨を辱ふし以て我校の移轉開校式を執行せし時に當り余ハ本校從來の校則を一變し教育の方法を改良し彼の智德と躰育とをして鼎峙せしめ以て本校創立委員諸君の厚意ヨ酬ひんとを誓へり爾來僅かに一裘葛を經月日尙淺しと雖も校則全く整頓し學藝の進步日に其面目を改め生員も亦殆んと其數を倍せり盖し其此の如き所以の者ハ一偏に生徒諸子の黽勉匪懈と教員諸君の拮据勵精とに依らずんハあらす今や我校移轉開校の第一週年祝日に遭へり茲に再たひ皇族大臣及ひ貴女紳士の來臨を辱ふし以て祝日の典を擧くるに當り先つ一週年の成績能く創立委員諸君の厚意を空ふせさりしを喜び併せて來賓諸君に向ひ本校教育方針の在る所を告けんとす。

抑も女子教育の議論一たび輿論を動せしより以來之を口にし之を筆にする者朝夕相踵く而して其要旨の在る所多くハ女子の學術技藝をして男子に譲らさらしめんとするに過きさるか如し然れとも男女其特性を殊にし其業務の同しからさるや炳然火を觀るか如く然り假令女子をして學術の精に通し技藝の妙に達せしむるも其心術の觀るへきなく其貞操の稱すへきなからん乎已に嫁するも良妻たる能ハす已に子あるも賢母たる能ハず苟も賢良の妻母たる能ハさる者豈女子と謂ふを得んや豈に婦人と謂ふを得んや試に彼の女子の册を挾み理を講する者を觀よ智察曹の如く才淸紫の如きあるも顧みて其私行を察すれハ間々人をして顰蹙せしむる者なきに非す夫れ貞操の物たる西哲諸を甁に譬ふ一たひ破れハ萬事已む嗚呼亦至重ならすや本校教育の方針たる主として賢良の妻母を養成するに任り而して賢良の妻母を養成するの方法ハ務めて普通の學藝技術に奬勵し大ヨ婉良の女德を薰陶し夫の女子一生の業務をして優遊自得せしむるに在る也。

嗚呼本校從遊の諸子は悉く上流の淑女なり上流の淑女たるものハ心術德操能く人の摸範たるに在り學術技藝能く其品位を高め其業務を全ふするに在り徒に章句の末に走り外觀の徵を逐ふハ上流淑女の務む可き所ろに非さるなり詩に后妃を頌するハ窈窕の賢母たるを謂ふなり易の牝馬を說くハ婉良貞妻たるを云ふなり嗚呼本校從遊の諸子ハ詩の后妃たらさる可らす易の牝馬たらさる可らす苟くも然らハ獨り創立委員諸君の厚意に酬ふるのみならす亦我國恬熙の文運に背馳せさる可し今本校一週年祝日に臨み謹んて來賓諸君に向ひ本校教育の方針を告け併せて本校從遊の諸子に望むと此如。

明治二十二年一月八日

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○文苑　(一)

鈴木弘恭大人撰

左の和歌は本年御歌會始めの製題を華族女學校高等女學校跡見女學校明治女學校成立學舍女子部頌榮女學校等の生徒より詠進せられし歌なりとて聞がまゝくかいつけたれば歌の優劣にも係はらず作者の順序も次第不同なれど此に掲出して諸令嬢の一覽に供す

水石契久　高鹽延子
ゆく水とこけむすいはへ大御代の永く動かぬためしとやみむ

同　立花敬子
さゝれ石に幾世の春をむすぶ苔のちぎりもたえぬ庭のいけみづ

同　土屋峰子
岩かね萬代かけてちぎりつゝみいけのみづへいく世すみけむ

同　櫻井菅子
大御代は千代もさかゑむしるしとて契久しきいはしみづかな

同　土屋都子
さされ石の岩ほとなれるこけのうへに絶ずもかゝる瀧の白糸

同　跡見桃子
君か代はうごかぬいはとゆく水のつきぬ流れに契りおかばや

同　跡見節子
諸共に千代やへぬらむ苔むせるいはほと水はおもふどちにて

同　片岡君子
流れおつる水はや千代にかはらじな清き岩ほに苔のむしつゝ

同　松野鐵千代子
かぎりなき御代のためしとさしあふぐ岩の瀧つせいかに久敷

同　柘植榮子
千年ふる岩ほの中をとめて落る水はひさしきちぎりなるらむ

同　朽木のぶ子
萬代も石と水とはかはらじなさかゑひさしき御代にあひつゝ

同　永井鐵子
かぎりなき御代もしられし山川のいはこす浪の音はとだえず

同　矢島幌子
流れゆく岩間の清水にごらぬはをさまる御代のしるし成らむ

同　新野初子
千歳へし岩ほにすめるましみづは濁らぬみよのしるし成らむ

同　秋元澤子
岩はしる瀧のとよみも君が代を千代とことほぐ聲かとぞ思ふ

新報

(此の欄内自由に轉載を許す)

○女子敎育の困難

前の高等女學校幹理箕作佳吉君嘗て吾人に語つて曰はく、女學校を管理して頭まを病ませぬものは余程冷淡不信切な人ジヤと、然るに其の大學に於ての撿窮に忙はしきと兼て脳病を患み居られたるとに由て遂に同校幹理の職を辭されたり。矢田部良吉君之に代つて同校校長たり、嘗て大日本敎育會に於て吾人に向ひ演説せられたるには、凡そ敎育上の事は精神と精神とに關するものゆへ口には述られぬ、然し他日若し事機あつて吾説を實行し得るとあらば請ふ少さか試みる所ろあらんと、斯くて高等女學校を總理せらるゝに及びては定めし世を驚かすべき英策あらんとは吾も人も刮目して待たる也、其の期望に違はず隨分に立派なる改良を行はれ尚ほ行ひつゝあらるゝ樣なり、而して去る十二日には三年目にて大日本敎育會に於て同君の演説あり題して「女子敎育の困難」と云り。女子敎育は實に困難なるもの也、たゞ之を困難なりと知るもの彌よ多くなるに由て他日遂に困難あらぬ者とは爲とに候。

○女小説家續々として出づ

女性の小説家に就ては曩に吾人一言したり、然るに此頃に至

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

り更らに左の如き報告を得たり、
讀賣新聞に掲載する馬琴流の小説「婦女の鑑」を草したる曙女史は岡本榮(十九)子とて有名なる牛肉店いろは木村庄平氏の長女なり昨年高等女學校を卒業す。醫學博士小金井良精氏の細君及び醫學士森林太郎氏の令妹きみ子(十八)等は大和錦てふ小説雜誌の需めに應じ和文の小説を編成中あり尚又鷹司さよ子も餘程藻思に富せらるゝ由にて何か趣向中のよし、此等は皆な高等女學校の卒業生なり。
惣ての女性小説家に對する吾人が注文は、數度び既でに申したる如くなり。

○根本正氏

米國バーモント大學留學中の根本正氏は、兼て婦人禁酒會の事業に熱心にて、東京なる婦人矯風會と米國なる婦人禁酒會との間だに立つて始終交通音信の仲保を爲し、從來の盡力一と方ならざる也、此度も亦た本社に數多の報告を寄せつゝ且つ左の如き書を送られたり、

(上畧)本月十一日發を以て島田三郎氏よりの書に大兄の御事業の美德に付巨細に申來り首めて大兄の御精神を承知仕り日本の爲に喜び申候島田氏の書に自然都合もあらば新聞を大兄に通じ呉候樣申來候故に向來珍敷事もあらば申上候積りにて候女學の事に關したる新聞紙も皆な中川氏へ呈送仕候間同氏より折々奇事を拔き呈上候事と存候當方に在りても一層心掛候樣可仕候早々敬白

根本正

巖本善治樣

讀者と共に厚く之を謝す。

○白粉を廢すべし

紅と白粉とは女の爲に無てならない者のように爲つて居て、隨分需要の多いものです……必竟此の二物の流行するは女が自分を其當り前より好く見せ樣、即はち其顏を當り前より白く見せ樣、其の唇を當り前より赤く見せ樣と思ふ虚飾心があるからでせう。尤も男にも白粉を着るものがある相ですが之は餘程な間抜郎野であります。……三四年前より西洋服が日本婦人の中に見へますが之と共に白粉が止めにあらうかと思ひましたが、中々止まぬようです。近頃ろ度々或る夜會又は園遊會に行て見ると、着物は西洋流なれども顏に白粉をゴテゴテ塗つけた女が實に多いのでビツクリ致しました。斯る女は人間の當り前の顏色なくして一種奇々妙々の姿たにて幽靈も一歩を讓らんとするの有樣です、吾輩はどうか之計りは止て貰ひたく思ひます。顏を塗たがるのは世界中女の通弊と見へ西洋の女も一種の白粉を往々用ひますが、日本の女ほど甚はだしく塗りたてぬようです、淡化粧は尙ほ恕すべきも、ゴテゴテ塗、白壁ぬり、粉屋の盜賊などは餘り醜くいから、早速お廢止にしたいものです」。とは羅馬字雜誌記者の歎願あり、

何如にも吾人と云へども亦た連署いたし申す、然し人間は大博士より黒坊に至るまで皆一樣にそれ〴〵飾りたがるものであるに、況して御面躰は是れお化粧の本舞臺の事ゆへ迚も此の願書は採納されまじ、只だ魔糞公の徒いよ〳〵增加して男子の美術的好尙が一變するの日を相待つのみ也。

○白楯隊の婦人、大淸人民に訴ふ

上海に居留する外國婦人ハ其地に行はるゝ女子の不正業を見て大に慷歎し、之が禁止の策を外國領事に出願したるに領事等之を顧みざるにより、更らに支那文字刊行の二新聞に投書して輿論に訴へたり、其文を重譯するに大畧左の如し

昨年の春上海に在る外國婦人數名は白楯隊(ホワイト、シールド、ユニアン)と云へる一會を組織したり白は淸潔に象どり楯は保護の義を示すものなり而して隊の主義とする所ろは凡そ淸潔なる志想を有する婦人は彼の墮落したる婦人を保護する爲に盡力せざる可らずと云ふにあり蓋し多くの支那人の若き女子は或は勾引せられ或は强賣されて尤も卑しむべき家に留め置かれ外國人及び本國人の爲に賣淫す吾等は之を見るに忍びずして此の隊を組織したるなり而して英國領事は外國人に賣淫する婦人に限りて梅毒檢査の法を施行し「ロツク、ホスピタル」に於て時を定めて檢査し差支へなきものに鑑札を與へ病ひあるものは之を退け別に此の病を治療するの處置を爲さす。

西洋より玆に渡來したる吾々婦人は既に國を異にし語ばを異にすと雖ども支那の女子を見ると猶ほ姉妹の如くなれば彼等が斯る恥辱と不幸とに陷いれるを傍觀する能はず故に此の烈火の間より彼等を救ひ出す方便ともならばやとて即ち此の白楯隊を組織したり。

去年夏吾々會合し先づ外國人の爲に賣淫するものを禁止せしむるとを必要なりと認ためたるに付直ちに願書を英佛の領事に宛て差出したり六十四人の婦人之に記名調印し外に七十四人の紳士連署し斯る憫れむべき婦人を解放せしめ得べしと希望しつゝ彼の願書を差出たり如此き願書に對して如此き領事が不認可の照答を爲すべしとは何人か能く之を想像すべき然るに實に不認可されたり多くの婦人方の深き悲しみに沈で不認可されたり故に吾々は其後ち此の事情を細記して支那の官廳へ差出さんと欲したれども吾々は直ちに之を差出すべきの便利を得ざるに付き其他に爲し得るの一策は即はち此の新聞紙上に於て公衆に訴ふるの外なく遂に如此く宣言するに至れり必竟之れ支那國の方々が何如に外國婦人たる吾々が此の不正業の爲に悲しむかを承知ありて以て此の不正業を廢止するの良策を考案せられんとを望むにあり支那の人民は支那國の支配人によりて管轄せらるゝ也故に此の支那の支配人にして熱心に此の問題に賛成し彼の廢止を實行せらるゝあらば更に幸ひならん思ふに如此き商賣に關係し又之を行ふ所の人々は實に禽獸よりも尙ほ惡しきなり斯るとに心を硬くして冷眼視する人は全世界に一人もあるまじ吾々は潔淸き旗を揚げあらゆる正義の人が此の害惡を廢止するとに助力せられんとを望む。

公明なる慈善の事業は實に感謝すべきもの也。

○印度賣淫禁止會

英國倫敦に於て一昨年八月に設立せられたる此會は、クエーカル派の人々の盡力する所ろたり、設立後二ヶ月にして會友三名直ちに印度に渡り、二十年來同國に公許せられたる賣淫條例を全廢せんとに盡力せり、其の三名は即はちアルフレツドダイヤー氏、其細君、及びコルリンス孃なり。嗚呼印度國を亡ぼしたるものは英國民なり、而して印度國の惡德を矯正せんとするものも亦た英國民中に多し、世人乞ふ外國人として一概に論ずる勿れ、日本國民中に數多の外國人あり、外國人中數多の同國人あきにあらず、吾人は德を慕ふもの天下に相ひ手を結びて　上帝の眼下に一大靈國を結搆せんと欲するもの也。

○跡見女學校開校第一週年祝會　去八日午后執行せられたり當日の景況は諸新聞紙に出でたれば爰ず而して校長跡見花蹊氏の祝文は寄送せられたる儘本號に掲載したり。

○高等女學校　今回東京府に於て京橋區南小田原町に高等女學校を新設する由は前々號の紙上に掲載せしが聞く處によれば同校は卒業の上本人の望により小學校教員たらんとするときは別に試驗を要せずして免許狀を附與する定めなる由にて入學規則は年齢十三年以上にして高等小學科卒業若くは之に等しき學力ある女子にて生徒の定員は當分の内二百人とし授業料は一ヶ月金一圓五十錢なりと云ふ。

○美術學校　は先頃て入學志願者の試驗を執行中なりしが志願者百十四名の内合格せしもの五十三名外に諸縣よりの特撰生五名ありて都合五十八名なるが去る十四日大學醫院に於て躰格試驗を執行したりと云ふ。

○大日本美術園藝學會　蓉冬龍井諸顯氏の發起にて大日本美術園藝會なるものを創立し事務所を本郷五丁目に設けたるが我が國固有の美術を振興し又園藝學校を設け實業研究の傍ら園藝に必要なる諸學科を教授して廣く園藝技術者を養成し又園藝品陳列所を置き實業者の參考に供するの目的なる由。

○府下現在の女諸藝人　昨廿一年十二月の末其筋に於て取調べたる府下現在の女諸藝人の數は左の如し

俳優三百十七人、道化踊百五人、萬作踊十四人、踊三百三人、落語三十人、手品三十二人、操人形十八人、綱渡一人、義太夫四百二十五人、常盤津四百八十九人、常盤家節十二人、岸澤十人、清元三百八十九人、富本十人、富士松三十四人、一中節四十五人、河東節五人、新内節七十人、松廼家節二人、薗八節五人、春卿節九人、長唄二百十六人、小唄四人、荻江七人、歌澤節四十二人、歌澤節三十四人、櫻川節十三人、浪花節二十五人、郁節二十八人、七色節七十人、祭文五十六人、藝妓千五百八十八人、以上合計四千四百三十一人

○二十二年中の御歌題　宮廷月並御歌會に本年中の題は左の如くなりと

一月　池noting

一月　池鴛鴦　二月　遙峰霞　紀元節　梅花始開　三月　巨勢金岡
四月　古寺郷　五月　尋殘花　六月　窓裡竹　七月　松下蟲尼
八月　初秋雨　九月　山中萩　十月　深夜雁　天長節　菊有新花
十一月　海外商　十二月　社頭霰

○婦人會　去年末の全國一覽表に洩れたる女學校女學會多かるべし此頃ろ追報せられたるは、久留米婦人協會（女德を修め女風を改良す）とて研究會常集會等を開くもの。石見國濱田に伊東ゆき外二名にて設けたる濱田婦人同志會（交際を親密にし互に相倚り相扶けて共に處世の要務を講究し同胞の利益を計る）と云ふものなり。

○神戸英和女學校文學會　毎月二回づゝ催うしあり本科生卒業生教員等その會員となる當期の會長はカニッン女教師副會長川本辰子書記増田つる子なり。

○雜報　關西女學會は佐竹濬瑞氏の盡力にて生徒も大に進歩したる由なるが今回反省會文學寮の附屬女學校となれり○京都婦人慈善會は過日初會を開き各自の懇親を結ぶ爲め大坂、大津等の婦人慈善會員を招待せる由○福岡縣下福岡にては有志者中に福岡女學校創立の事を計畫し既に其筋へ出願し趣旨書を諸方に頒布したり○勢州山田の高向たね女は私立裁縫教授場を設立したり○豫州松山にては去る七日婦人交際會を開きたるが白根縣知事の夫人も臨席したる由○本月七日和歌山婦人會の諸氏は演說會を催ふせられたり。

外報

（此欄内由由に轉載を許す）

○桑港の鍛冶女　米國サンフランシスコに十五才の女鍛冶ありアンニホールと云ふ贋脊は繰骨なりとの譯にでも由るか同孃が製作したる鐵の贋脊殊の外流行し銘々一つ宛所持して何かのマジナヒとするが盛んなる由。

○エスキモーの女子　エスキモーの女子にてクレール孃と云へるは此頃ろ米國中の所々にて演說し盛んに歸衆を感動せしむるよし也。

○女子高等教育．米國にて有名なるスミス大學の校長シーレーは近頃ろ演說して日く女子に高等教育を施すべきや否やとの一事は最早や疑問すべきことにあらず現に其教育を受て成功し身躰も反つて壯健になりたるもの甚はだ多き也特に之が爲に婚姻を嫌ふもの多くなれりと云ふは實際を顧みざるを也。

○女子の船將　米國にて此頃ろ二人の女子船將となりたり一人は紐育の港に於て一人はミシシッピー河に於て。

小供談

本號記事多くして余白に乏しく不得止此の欄を省く。

女學雜誌社出版書目

中島湘烟女史著

●善惡の岐

定價金五拾錢　縮入美本

●目次○野蠻とも言へ未開とも言へ實に太平の里なるべし○高島田にやの字の娘五分さかやきに無刀の浪士○紅潮端なく上る佳人の面○一樹の名花春動く初○豁間の清流も繁都の泥水なりしを知らずや○雙腕の勇餘す所なく滿腹の智遺す所なし○撫松庵のみ能く撫松庵の胸中を知れり○痴夢情烟春月暗○誰知一滴愛情水散湧奔波激涙來○世上の功名灰塵に異ならず○錢囊瘦腹裡飢以て天下の經濟を論ず○貧生の慷慨情に足らず○當路の君子にして袖の下を嫌ふものはあらじ○双蝶花に戯れて春情あり○歡樂のある處悲愁の伏する處○姉妹の談濃かにして春窓の燗微かなり○怨もなく怒もなきは交りと愛と共に新なるによる○撫松庵が胸透寒く吹き送る巖間の風ぞ腥し○世難海より深かく人情紙よりも薄すし○會離縁あり應報爭ふべからず○優なる哉水聲人事の齲蹤を嘲る○情人の艶話唯閑雲の聞くあるのみ○上帝親なく唯善人に與みす○客窓涙あり孝子の情○茲に因ありて茲に果あり○人間の歡樂一塲の夢○墜葉翻つて力なく懶禽啼て恨あり○地下の白骨土いまだ冷かならず病窓の美人恨愈多し○開花是原落花風○人の死する其言ふとや善し。

●賣捌○本社、銀座博聞社、原金港堂

●婚姻論

統計局次長世良太一君序○統計協會議員呉文聰君序
通今居士横山雅男君著

定價金三十五錢　郵税十四錢

此の書は通今居士横山雅男君の著にして全編を二十八章に頒り總論。婚姻の定義、婚姻は人類の天性。婦姻の効力等より說き起し早婚、晩婚。私婚、血族婚。離婚。一夫一婦の正婚などを悉く歐米の統計上より論及し議論正確文章平滑一讀我國舊來蠻風の結婚を改良すべきの必要を感ずるの書なり

船越鼎太郎著

産婦小兒 攝生法

定價十八錢　郵税四錢

關輪正路君纂著○木村熊二、田口卯吉兩君序

女子必携 今世ひめ鑑

全一冊　定價六十錢　郵税十四錢

右出版いたし候是非は自から公評あらん凡そ當世婦女子の心得べき承知すべき質問すべき箇條は大抵悉とく記載し有之候蓋し昔の「ひめ鑑」の重寶なりしを御存知の方々は此開化したる當世のひめ鑑も亦同樣に助けあるとを想像し玉ふべし

婦人矯風會書記佐々城豐女譯

婦人言論の自由

一冊十錢　郵税四錢　（新版）

德富猪一郎君評曰く婦人の言論ハ人を屈服するに非ずして人を勸誘するに在り而して其勸誘するや或は涙となり或は笑と爲る然れ共其一泣一笑時に或は千言萬語滔々たる議論に優れると無きにあらず吾人は佐々城姉が此譯の世に出でたるを喜び世の姉妹に此書を一讀せられんとを推薦す云々

巖本善治君評曰く然れども余が此書に於て特に尤も歎賞して措く能はざる者は本書の著作の由來記にある也記に云く月明くの夜妾良人と共に出でゝ消遙す偶ま會堂に入て共に座に就く時牧師會后の集會に云々此時妾良人の面を窺ふに良人勃然として立ち反論して之を不可とす妾實に晴天霹靂の思ひありき然れ共直ちに携ふる所の速記用紙筆を取出して則ち良人の論を筆す記して成る所のもの即ち此書なり云々。

諸姉妹乞ふ一讀を賜へ。

文法口授

鈴木弘恭大人著○一冊定價十八錢

右は明治女學校、成立學舍女子部、跡見女學校、頌榮女學校、長榮女塾等の教科書なりし處**第一高等中學校**に於ても此度び亦た此書を以て**教科書と認定**せられたり、他の各女學校及び男子の學校に於ても同樣に採用せられんとを請ふ

巖本善治編

女學叢書 木村鐙子小傳

定價十錢　郵税六錢

右は鐙子刀自の傳記にて姉妹方の必ず閲讀せらるべき價値あるものなり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●通信女學講義録自第一巻至第十五巻總目録

第一巻

○通信女學發行の主旨○畧則○女子生理第一回○育兒心得第一回○文學一斑第一回○万國史畧第一回○西洋女禮第一回○問答叢話

第二巻

○文學一斑第二回○女子生理第二回○西洋女禮第二回○萬國史略第二回○育兒心得第二回○問答叢話

第三巻

○文學一斑第三回○育兒心得第三回○西洋女禮第三回○女子生理○家内理學第一回○問答叢話○避暑の遊を勸む

第四巻

○文學一斑第四回○家内理學第二回○万國史略第三回○西洋女禮第四回○女子生理第四回○育兒心得第四回

第五巻

○文學一斑第五回○育兒心得第五回○女子生理第五回○家内理學第三回○西洋女禮第五回○万國史畧第四回

第六巻

○文學一斑第六回○地文學講義第一回○育兒心得第六回○西洋女禮第六回○女子生理第六回○家内理學第四回

第七巻

○文學一斑第七回○地文學講義第二回○西洋女禮第七回○育兒心得第七回○家内理學第五回○女子生理第七回

第八巻

○文學一斑第八回○育兒心得第八回○女子生理第八回○和畵講義第一回○地文學講義第三回○家内理學第六回

第九巻

○百人一首講義第一回○和畵講義○文學一斑第九回○子供のはなし○洋畵講義第一回○育兒心得第九回○女子生理第九回

第十巻

○文學一斑第十回○育兒心得第十回○女子生理第十回○百人一首講義第二回○家内理學第七回○地文學講義第四回○子供のはなし

第十一巻

○育兒心得第十一回○女子生理第十一回○百人一首講義第三回○家内理學第八回○地文學講義第四回○子供のはなし

第十二巻

○女子生理第十二回○育兒心得第十二回○家内理學第九回○百人一首講義第四回○子供のはなし○文學一斑第十一回○地文學講義第四回

第十三巻

○女子生理第十三回○育兒心得第十三回○經濟學○百人一首講義第五回○子供のはなし○文學一斑第十二回○眼鏡の話○家内理學第十回

第十四巻

○百人一首講義第六回○婦人病の元因○經濟學○女子生理第十四回○育兒心得第十四回○文學一斑第十三回○家内理學第十一回○小供のはなし

第十五巻

○文學一斑第十四回○婦人病の元因○經濟學○百人一首講義第七回○家内理學第十二回○小供のはなし○育兒心得第十五回○女子生理第十五回

●愛讀者諸君へ謹告す

一百人一首講義及女子讀本講義は前號の附録刷誤の所有之候に付改めて印刷致し本號に掲載致し置き候事

一婚姻説、及び女子讀本は今回より略頭を附し候に付第一回分と躰裁を異にする所有之但し他日合本とせらるゝ迄には第一回分二頁を改刷し呈上可仕候事

東京々橋區日吉町八番地　女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○百人一首講義

鈴木弘恭述

第八回

淸原深養父

深養父は。大系圖に舍人親王五代の孫房則子。作者部類に筑前介海雄の孫。豐前介房則の子と見えました。舊註どもに從五位下內匠允とありて。醍醐天皇の朝の人也。其の事跡はあまり物に見えざれども。山城の愛宕郡小野の里に。深養父が建立せし補陀落寺といふ寺ありと云ひ傳へたり。深養父の歌は。古今集中に多くもあらねど。春下にある落花の歌に。花散れる水のまに〳〵とめくれば山には春もなく成にけり。とあるは。最も非凡の秀吟であります。

夏の夜はまだよひながら明ぬるを雲のいづこに月やどるらむ

此歌は。古今集夏の部に載せて。詞書に。月のおもしろかりける夜曉がたによめると有○まだは。いまだと同言にていを省きて。まだとも云也○よひながらは。宵のまゝ也○明ぬるをは。かやうのをはヨに通ふをにて。然るをといふ意を含めり。故に委云はば明けいぬるよ然るをといふ義也○いづこは。いづくと同言にて。くもこも所の義也。此所、は重の指辭にて。かやうの何の何と云と同類也○一首の意は。夏の夜はいまだ宵だと思ひてあるまゝに。いつのまにか夜ふけて明けいぬるよ。然るを雲のいかなる所に月はやどるであらう。かばかり短かき夏の夜なれば。空行く月も常にさし入る山の端までは。よもや行き着くまじ。半途にて夜が明けたれば。大かた雲のいかある所にか宿りたるならむ。と疑ひたるさま也。爲家卿が此歌の意をとりて。卯の花の垣根は雲のいづことて明ぬる月のかげやどるらん」とよまれたるをも思ひ合せて見るべし○語格は一段切れにて。雲のいづことあるいづこが指辭にて。月やどるらむのらむにて結ひたる格であります。

文屋朝康

朝康は。トモヤスとよむともいへり。作者部類に。文屋康秀の子なり。大膳少進。仁和朝後の人とあり。或說に延喜二年任大舍人允とあり。宇多の朝より醍醐の朝までも仕へたる人であります。

志ら露に風の吹しくあきのゝはつらぬきとめぬ玉ぞちりける

此歌は。後撰集秋中に載せて。寬平の御時是貞親王の歌合のうたであります○志ら露は。キレイナル露といふ義也○吹しくは。風のふくが上に吹くと也。すべてしくといふ言は

物の重なることなり○つらぬきとめぬは。貫き止ないといふこと之。大方玉は糸に貫きて愛玩する故にかくいへるなり。この歌は。秋のあした草木の上に。所せきまでおき渡したる朝露を。風が俄に吹出で。やまずにうち吹けば。露のこぼるゝさまを見たる實景也○一首の意は。おきわたしてある奇麗な露に。風の切りに吹く秋の野は。恰も糸につらぬかない玉が。ばら〳〵と散るやうヂヤがさて面白いことであること之○語格は。一段切れの歌にて。玉ぞのぞか指辭にて。けるで結べるなり。

右近

右近は。右近少將藤原季繩の女也。藤原氏系圖に。季繩は眞成の曾孫。子葉といふ人の子にて。鷹匠の名人にて。右近衞少將從五位上になりたる人とあります。さて右近といふのは實名にあらず。例の呼名之。父が右近少將なる故に右近とはいへるなれど。實名は詳ならず。歌仙部類に。朱雀村上二代の國母太皇大后に仕へたり。父季繩は。交野の少將とて。好色に名高かりし由見えたり。此國母太皇大后と申すは。七條后穩子とまうし奉りし御かたであります。

わすらるゝ身をば思はずちかひてし人の命のをしくもあるかな

此歌は。拾遺集戀部に載せてありますが。大和物語にも見えまして。大和物語には。おなじ女。男のわすれじとよろづのことをかけてちかひければ。わすれにける後にいひやりける。とありて此歌をのせて。かへしはえきかず。とあります。これは大かたの戀のうたと異なりて。浮薄なる男に對して。猶眞實の愛情を述たるなれば。舊註どもにも。此の歌ぞ誠に戀の歌の本意といふべし。など論じてあります○わすらるゝ身とは。女がみづからの身上をいへる之○ちかひてしは。男と堅く神かけて昔時誓約したといふことにて。此のしは過去のし之。さて神かけて堅く誓約するとは。たとへば。若し變心して違約したならば。その違約したものゝ一命を取り玉へと。互ひに命をかけて神に祈誓しさま之。故に今は男の方にて違約したれば。男の命を神は取り玉ふ事ならんが。其の男を恨めしとも。惡しとも思ふものゝ。眞底にくゝはなくて。却て女の方にては。男の命を取らるゝのが氣の毒に思はれて。みれんらしいがイッソ惜まるゝワイ。といふ眞の愛情を述べし也○一首の意は。先方は薄情の男にて。此方はかやうに忘れてしまれるゝ我身と

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ならうとハ思はないで。その人と神かけて堅く誓ひて。互に若し心變りがしたことなら。その變心した方の人ハ。速に神罰を蒙りて命も絶なんと祈りておきし事であれば。定めて彼の人の命ハ今に神に絶るゝとならんと思へば。却て今ハ氣の毒になりて。その人の命が我が命にかへても惜くおもはるゝとギヤナアと之〇語格ハ。一段切れの歌にて。をしくものもが指辭にて。かなにて結べるなり。

參議等

等ハ。嵯峨天皇の皇孫。從三位中納言希の子之。美濃守となり。左中辨。勘解由長官などに任ぜられ。醍醐朱雀の朝に仕へし人なり。作者部類に。天暦五年三月十日薨。七十三歳とあります。

淺茅生の小野のしのはらしのぶれどあまりてなどか人の戀しき

此歌ハ。後撰集の戀部に載たるうたにて。男が女を愛戀する情を述たのでありまス〇小野ハ。地名にあらず。淺茅生ハ。奇麗に緑草の生じ茂りてある所をあさちふといふ之。即ちふは生ひ茂ることにて。篠原芝原をさゝふしはふといひ。麥畠豆畠をむぎふまめふといふが如し。人名に荻生某などある荻生もその生ひ茂りたる所の名より出たる之〇しのはらは。さゝふと同じことにて。篠の多く生じたる所之。原とハ。廣き所をさしていふ名なる事ハ。上のわだの原の條に既にいへり。然れど此所ハ。淺茅生の小野のしのはら。といふ二句ハ。詞の序におきたるにて別に意なし。しのぶれどといふより以下が入用にて。則ち此の歌の旨意でありまス〇しのぶハ。心の內で深く思ふこと之。故に忍の字を當たり。此歌を說明には。上の二句は無用なり。しのはらといふしのより直ちにしのぶといひ掛けたるにて。斯樣にいひ接くる詞をば語路の接ぎまといふ之〇などかハ。俗ドウシテカ之。指辭之。實ハなどとかと二個の指辭の抱合したるなれど。普通にハ一個の指辭として。ぞやかの何など云何の種類のうちに入れたり。されどこれかの種類とすべきことなり〇一首の意ハ。人めに掛るまいと深くおもひてあるがマアあれど。思ひあまりてどうして此のやうに彼の人が戀しいであらうと之〇語格ハ。一段切れの歌にて。などかが指辭にて。戀しきといふ形狀連躰言にて結びたる格であります。

平兼盛

兼盛は。大宰大貳篤行の子之。和漢の學に通じ。從五位に叙し駿河守に任ぜらる。大和物語には越前權守とあり。後撰集には兼盛王と見えたり。按るに袋草子に兼盛本以二王氏一。爲二大君一天暦曰レ之歸二本姓一云々。とあれば。後撰集には兼盛王とかゝれしにや。朱雀村上の朝に仕へまつりし人にて。彼の有名なる赤染衛門が實父であります。

忍ぶれどいろに出にけりわか戀はものや思ふと人のとふまで

此歌は。拾遺集の戀の部に載せてありて。天德の歌合の歌であります。宗長聞書に。年月ふる心を下にもたせたる也。戀の切なるゆゑに。思ひよわれるさまを人にとがめられて驚きたるありとあり○忍ぶれどは。上にいへるが如く心のうちにのみ深く思ふを忍ぶといふ之○いろに出にけりは。色よデヽキタワイといふ義之○とふまでは。問ふまでにといふ意之○一首の意は。かねてより我か戀ふる女のあるをば。人に知られまいと秘して。心のうちにのみ深く思ひて居たれども。我戀はつひに顔色に出てキタワイ。何か物を思ふならんと。他人が問ふまでに成てきたと之○語格は。一段切れの歌にて。二の句にて切れたり。又四の句のものや思ふとあるも。やが指辭にて。思ふといふ連体言にて結べるなれど。助辭のとにて是をうけて。下に接續たり。さて終尾の句の人のとふまでは。例の上へ打反りて。人の問ふまでに色に出にけりといふ意とある格であります。

壬生忠見

忠見は。忠岑の子なり。賤官なりしかども。醍醐天皇の思召を以て朝廷へめされ歌などつかふまつれり。後に天德二年攝津大目に任ぜられたり。忠見幼少の時内裡より召あり。乘物なくて參り難き由申すに。竹馬に乘りて參るべきよし御定あり。仍て歌を進まつる。

竹馬はふしかげにしていとよわし今ゆふかげにのりてまゐらん。と袋草子に見えてありました。

戀すてふわが名はまだき立にけり人しれずこそ思ひそめしか

此歌は。拾遺集の戀部に載せてあります。此歌は天德の歌合の時。上の兼盛の歌とつがひたる歌にて格別の優劣なき歌なり○戀すてふは。戀を爲といふ之○まだきは。いまだき之。俗にハヤといふ意之○一首の意は。戀を爲るといふ我名ははや立タワイ。人に知れないやうにキット思ひ初めタガマアと之○語格は。二段切れの歌にて。わが名はのはが指辭にてにけりで切れ。又こその指辭をしかにて結べる之

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

感情交換者夫婦萬福の本

一方の愛情完からざる結果

だけの返報を受けんとの冀望ある爲なり。

されば此感情を交換すと云ふ事、婚姻を爲さしむる一大衝働力なり、他の幸福は多くは此一事の有無に依て、或は出て來り、或は失はるゝものなり、此感情を交換すと、夫婦間の和樂平和とは、常に同伴するものにて、一を欠けば他も從て來らじ、互に思を交換することをせずして、夫婦の間の幸福平和なきはなほ蜜雲空を閉ざしたる日中に、太陽の光を見る能はざるが如く、明と暗と相兩立し得ざにる似たり世間の夫婦たる方々、能く此一事を務め給はゞ些細の行違等は決して言ふに足らぬとなり、試に廣く社會を見渡せば、互の心相合ひて互に心を交換すとの出來ると見ゆる人のみが相結んで夫婦となり、互に愛し愛されてあるに、一方には互に此交換の覺束なき人々はとても夫婦となりたりとて眞正の幸福を得べくもあらず、從て始めより戀愛と云ふ段にも至らざるを見るなり。

然し假に交換するは出來得べしと心得て、相合ふて抗儷となりたりとし、若し夫にても又は妻にても一方の愛情の濃やかなるに引換て、他の一方は冷淡の待遇をなさば一方の不快は如何ばかりぞ、生理學上より論ずるも、愛情と云ふ者と人間の身躰の健康とは非常に蜜接の關係ある者にて、若し一方の愛情が他の一方の愛情と比例して少しも過不及なきときは、神氣爽快愉快幸福云ふ可らずと雖ども、若し一方の愛情放てる矢の如く鐵砲玉の如く他の一方より返報なく、却て愛すれば愛するほど感ぜられず、冷淡の處置を見るときには其影響は強く身躰の全部に及ぼし或は鬱憂不活潑となり、或は深沈寡默の人を變じて輕躁短慮とならしめ、其他種々雜多なる病氣を引出すなり、彼の不幸の兒子を持つ兩親が、始終憂ひ沈み甚しきは遂に死に及ぶが如き、其兄の無賴を痛んで病を起す愛深き妹あるが如き、夫の放蕩を悲み空閨に呻吟する妻あるが如き、皆此理なり。

愛情交換なき伉儷の不幸

サア此愛情交換の必要なることは、已に經驗ある人々は固より首肯せらるべし、若し又た實際自分に經驗なき方々も、廣く世間の夫婦を見給はゞ必ず

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

知り給はん、其中にて夫にても又た妻にても、何れか一方が無理に强ゐられ、或は止むを得ざる事情の爲め遂に婚姻するに至りたる夫婦は、一生眞個の幸福なきことを、勿論始めは好まざりしが、婚姻後双方の愛情互に平均を得たるものは、則ち此婚姻の必要條件を充すもの故、例外なれども此例外は實に稀なり、世の年少婚嫁の位地に立つ男女の方々よ、願くは此愛情交換と云ふ大原理を忘れ給ふな、決して他人或は親類の勸めばかりにて已れ自ら相愛することなくしてユメ／＼强ゐられて生涯の一大事を決し給ふと勿れ、實に一方に愛あるも一方に眞正の愛なく、唯他方の位置あるに望を置き、或は富を目的とし、或は唯學問を喜び、或は其父兄の權勢財産に目を奪はれなどして相合ふに至るは一生涯の不幸を買ふものなり、無謀無思慮此上なしと申す外なし。

西洋諸國亦不完全の婚姻少からず

學士フヘウル氏は、殆んど二十年間も夫婦和樂の根源は何ぞ、伉儷の不幸不和は重に如何なる注意を怠るより起るや、などに就きて學理上より研究し、又た自ら數多の實例に徴して結論をなされたる人にて其説は一より十まで悉く承服すべしと申すにあらねど、我等に益する所決して少々にあらず、以上引用したる一節の如きは啻に夫婦間の和樂の源を説き得たるのみならず、實に父子兄弟友人の間に應用しても、均しく効力あるを覺ゆ、西洋諸國にても我邦の如く、隨分義理附にて夫となり妻となるものもあり、又は或る近頃米國より皈朝せられたる學士が申されたる如く、米國の如きは近來富の力非常に强く成り社會一面に金是力と云へる言の實行を見る姿にて、一方には熱心なる宗教家博愛の慈善家あるにも係らず、人の忠義心も愛情も親切も幾分か金錢にて購買の出來る勢にて、從て財産ある者に嫁ぎ又は嫁資に目を呉れて富家の女を娶り、天然の愛情の双方間に成立ぬに人爲にて無理に相合ふの年少男女を見ると尠からず、慨すべきの至と考ふなり我日本にては從來の婚嫁の風は固より非議すべき者だらけなれども、今日と雖とも立派なる學校を卒業せられたる學士、或は女

分業の利　第四

知ぬ農夫や漁夫が、耕作や漁業の熟練から、機械を發明した例は隨分澤山ある、勿論機械の發明には、器械學とか、高等數學とか、理學、化學、等の高尙なる學科を要することは固よりなれど、斯る高等の敎育を受ぬ人でも、常に專ら一事に從へば、熟練の中自ら工夫を生じて、有益の機械を發明し得る事は分業第三の功能である、

右は分業の三功能であるが、其中大切な事が今一箇條落てある、之はバッベーヂ氏が附加へた、即ち

職工の長ずる所の技倆をして、專ら働かしめ得る事

凡そ職業といふものは、前にも述た通り、種々の手數の掛るものである、針一本十八通りの手數の中には地鋼を同じ長さに切るとか、出來揚つた針の上包をするとか、小供でも出來る樣な事もある左樣な易き仕事をするものは、隨て賃銀も廉ひ、又針の尖を尖らすとか、耳を付るとか非常に熟練を得たものでなくては、出來ない事もある、斯る難かしき職業を爲し得る職工は、世の中に人數も少なく、殆んど專賣特許を得た技能といふても宜ひ位であるから其賃銀も隨て騰ひ、然るに若し分業の法といふものがなく、一の仕事は一人の職工で、始めから終まで仕通さねばならぬとすれば、先きの廉き職人は、針の尖を尖らし耳を付る事が出來ぬから、職人としては雇れない、其代り小供でも出來る樣な上包までも、專賣特許の職人を使はねばならぬ、其他一ヶ月三百圓の給料を取る醫者を雇ふて、藥を伐る仕事までもさしたなれば、葛根湯一服が五十圓位に價するかも知ない、何と不利益千万ではないか、故に若し之を分業の法にさへすれば、容易き職業は賃銀の廉き職人に働させ、難かしき仕事は之を賃銀の高き職人にさする事が出來る、之れ分業第四の功能である、

斯く分業の利益を說來らば、針屋の主人或は言はん

成程分業の利益ある事は能く了解した、併し職人を十人使つて、一日五万本、一月に百五十万

分業の度は貨物の需要の爲に制せらる

本を製らへ揚ても、迚も其半分より針が賣れなければ如何、

此疑問は誠に必要なり、如何に分業に依つて製造が澤山に殖たればとて、之を賣捌くことが出來ずでは利益とは成らない、故に若し之を悉く賣捌くの道つかず、一月に七十五萬本より需要のない事あれば、已を得ず、職工を減じて、六人位にて之を働すより外に仕方がない、然し職工が減れば分業の部分けも少くなり、分業の新分けが少なくなれば製造の入費が澤山費るから、製造品の價を騰けねば引合ない、之に反對し、需要が増せば分業の法が多く行はれるから、物品の價が廉くなる、假令ば英吉利に於て、双眼鏡の如きは、以前は格別之を用ふるものなく、唯視學の研究とか、光線の理屈を説明す爲め、僅に學問の教科上に用ゆる位であつた、故に之を製らへる職工も、誠に少く分業の法を行ふ程の必要もなく、一人で製らへて間に合つた、然るに近來雙眼鏡は、客間の玩弄に迄もてはやさるゝ様になつて、毎年一萬も製らへる様に成つた、ソコデ今は分業の法も行われ、機械も發明され、職工も熟練して、手輕に出來る様になつたから、其價も以前の四分の一で買る様に成つた、

買人が殖れば、品物の價が廉くなるとは變でないか、

成程、需要が増して物價が下落するとはチット變な様なれども、其理由は分配の章を讀めば明に解る、兎に角右の次第に由れば、需要の多ひ少ひによりて、分業の部分けも多くあり或は少くあるとは事實であろふ、

勞力の協同

斯の如く勞力を分けるとも利益であるが、又勞力を協すと即ち協力といふとも必要である、ウエークフヰールド氏は之を二つに分けて、

第一　單純の協力

第二　複雜の協力

職人が聲を揃へて一本の材木を河から揚げておる之れ單純協力の屈竟の例である、大勢の力を一の仕事に集めてこそ、重き品物も動すとが出來る

女子讀本

緒言　家と云ふ事幷に家事經濟の事

英詩にスウヰートホーム(樂しき家)と云ふ一什あり、誠に能く家の和樂團欒の狀を寫せり、そも此英語にて「ホーム」と云へる語は、佛語などにて丁度同じ意味の字なしと申して、實に深長なる意味あり、日本語にては先づ家と譯するより致し方なし、然し日本語に家と申すは住宅を指すを通例にて、英語のハウス(住宅)と同じき場合多し、故にホーム必ずしもハウスに非ず、ホーム、則ち家と云ふは、必ずしもハウス、則ち住宅と同じからず、例へば某氏あり東京々橋區紺屋町一番地に夫婦家族一同寓居するときは、同所は其人の住宅、又ホームなり、然し若し麹町區一番町二番地に移轉せば矢張其所は其人の住宅、又ホームなり、同じ住宅なれども其住宅の構造間取等は決して前と同じからず、然しホームは同じくホームなり、則ち住宅と家とは全く別物なり、蓋し家を結付る者は家族間の愛情と云ふ一個の丈夫なる繩にて、此繩は多くの心を合せて一個の家、則ちホームを形付るものなり、苟も善良慈愛なる父母の家に養育されたるもの、誰れかスウヰートホームの詩を誦して感激せざる者あらん、彼の幼稚園の熱心家フーベの如き、子女の敎育に全心を注ぎたる、父母の間に生長したる故、殊に此詩を愛誦せりと傳ふ。

さて、右の如くホームの意義を說明し置き、次に考ふべきは家事經濟と云ふヿなり、そも經濟と云ふ言は、古昔より用ひ來りたる語にて、近來西洋の學術日本に傳はり來りてより、經濟學と申して立派なる專門學も出來たり、通例我儕經濟と申すは、高價なる品物を買ふべき所を、先づ安き者にて濟し、衣服の破綻たるときは、大破に及ばぬ内に繕ひ、萬事節儉して金錢を貯蓄するヿを申す如く覺ゆ、然し金錢を遣はぬ樣にし貯蓄するヿ必ずしも經濟と云ふ可らず、諺にも安物買の錢失ひと、申して低價にして脆弱なる品を買ふは却て不經濟なり、されば經濟とは亦金錢の用法を知るをも含めり、又經濟とは萬事を正當に處理するヿにて、費用すべきときは費用し、節儉すべきときは節儉するヿを云ふ、經濟に達したる大藏大臣は、歲入に比例して各省の費額を定め、政府の負債に苦しまざる樣に處理するにあり、家事經濟とは、適當の方法を以て一家を整頓するヿなり、一國の安寧繁榮を保たんとならば、法律に從はざる可らず、其如く一家の和樂幸福を得んと思はゞ、亦法律に從ふヿ大切なり、政府の法律に刑法、治罪法、民法、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

商法等の區分あれども、一家内に行はるゝ法律は、少しく其名を異にす、先づ父母に從順すべきと、兄弟を愛すべきと、夫婦睦しかるべきと等は義務法とも申すべきか、此法律に背く時は、誰にても心に愉快滿足なし、又空氣の流通、食物の調理等の事を敎ゆる法律は、之を衛生法とも申すべし、政府の法律を犯す者は罰金、禁錮、死刑等の刑罰を蒙むる如く、上に述し衛生法、義務法に違背する者は、必ず不和、心配、病氣、痛苦、等の罰に處せらるべし、若し又豫じめ夫等の法律を取調べ置き、愼愼柔順にこれを遵守する時は、其人の有樣はます／＼幸福なるべし。

少しにても衛生法を脩めば、直ちに一家の内にて宜しく爲すべき事、宜しく爲す可らざる事の判斷は、容易につくべし、實に女子の未來を思へば斯の如き智識は極めて要用なり、なぜなれば女は一家の女王にして、婦女子の正當なる職務は此王國を支配するになればなり。

第一章　一家の義務、食物幷に其料理法、衣服幷に其地質

一、兩親に對する務め、

一人の年老ひたる紳士、病に罹り早や終焉の際に臨み、其一子を枕邊に招き、細きせつなき聲にて

ォー我兒よ、爾は余に對し一日として幸福の源とならぬ日とてはなかりし、爾が生れてより以來、爾が病なりしときを除ては、余に毫末の痛苦だに與へしとなし、余は今汝に此世の分れをなさんとするを恐る、

と語りたりと、此言を受けたる娘、兒は如何に嬉しく喜しく感じたらん、悲しい哉、世間を見渡せば、父母臨終の其際に始めて永き睡より醒め、ア丶不幸の生涯を送りしよ、今一度病氣回復にならば今度は心を盡して奉仕へ奉るべきにと、嘆息して胸を擊つ兒子は幾何あるぞ、假令へサシテ不幸不順の子でなくも、ヨク／＼己れの本心に尋ねなば、父母の此世に在す間に敬愛の心不足して、幾度か心配を掛け奉りしとを想起すべし、「子ヲ持テ知ル親ノ恩」、滔々たる天下の御子さま方は、己れ心配を掛けらるゝ位置に立て、始めて親の恩を覺る方なり、猶太の賢王ソロモンの言に、賢き子は喜しき父を作れども、愚なる子は母の憂なり、とあるが、是は啻息子のみならず、世間の娘子たちも同樣、義務を怠り母親の心を痛め給ひしとはなき乎、サテ義務と申すは如何なるとか、義務とは何か、人にせねばならぬこと、何か人が自分に要求すべき權利あることを申すなり、故に兩親に對する義務と申すは何

詩人沙翁の物語

か父母に對し爲ねばならぬと、父母が自分に對し要求し得る事を申す、サラバ何々が其義務なるや、茲にクドくシク列擧致さずとも令娘等ハ大概承知せらるゝ事ならん、依て今三人の姫の物語を致すべし、此物語と申すは、今を去ると凡そ三百年以前、英吉利國に生れたる、世界第一とも申すべき詩人、ウイリアムシエークスピーアが其著はせる書物中に書き殘したるものあり。

昔し三人の姫を有ち給ふ一人の王ありける、其名をレアと申し奉る母君は、姫等未だ幼少に在す頃薨去なさせ給ひし故、父君の手にて育て上られたり父君には深く三人の姫を愛し給ひて、何一つとして姫の言に從はざるはなく、唯姫等の樂む顏を見るを此上なきとと思召したる樣見え奉る、父なるレア王には漸々と老年にならせ給ひ、早や八十餘となられ、長なる二人の姫ハ已に或る王方に嫁がれたり、王ハ此三人の姫君に領地を分與なし、已れハ唯姫君等の愛を受け樂とすべしと思召され一日三人を招き、如何程我を愛する乎と尋ね給ひけり、實に口辨にてハ何な言も云へる者にて、長姫ゴネリルと呼びまつるは兼て物言の上手なる方なりければ、父君の御尋の言も終らざるに、

妾は妾の最も大切なる眼目よりも、妾の住む世界よりも、妾の有つ自由よりも、尚父君を愛しまつる、世にあるとあらゆる珍らしきもの、美しきものも妾の父君を愛する心を奪ふ能はじ、妾は位階美麗、健康を兼具へたる生命も、父君の爲めには惜しからず存じはべると、

と聞へ上ければ、其妹君レーガン姫も姉君に劣らず、妾は姉君の仰せられたる通り父君を愛し奉る、唯猶強く父君を愛し奉るや測れずと申しけり、末の姫コルデリアは、王の最愛の姫にましまして、氣質極めて温和にて思ふ事さえ得云ぬ程はづかしがる方ありければ、今姉君等の辨舌に驚歎し、何云ん術もなく、唯差うつむひて低き聲にて、妾は誠に妾の心の程を口に出すと叶わず候へども、唯妾の義務だけは父君を愛し奉ると答へけり、レア王にして賢明の君に在さば、却て末の姫の方

己れを愛すると尤も深きを覺られたるべけれども兼て左まで聰明叡智なる君と申し難き上に、幾らか老耄あらせられ、無分別短慮の仕業も、度々臣下の目に留る位の次第故姉君二人に引換へて冷淡なるマルデリアの返辭に、痛く憤怒あらせられ、斯くつれなき姫に領地分與も無用なりイザ朕の領地は二人の姫に遣すべしと定められたり、サレバケント侯の如く兼々股肱と頼み、無二の忠臣と王の覺え淺からざりしも、コルデリア姫を庇護せし廉不屈の至なりとて追放の刑に當行はれ、早速國外に退出されたると痛しけれ。

此頃ブルガンデー侯、幷に佛蘭西王はレア王の方に客寓あらせられ、末の姫マルデリアを妻に申し受けんと望まれ居られけるが、此出來事の耳に入るや否、ブルガンデー侯は父君の不興を蒙り一寸の分地さえ有たざるコルデリアには用なしと云はんばかりに、即日旅裝を整へ本國ブルガンデーに出立せられける、佛蘭西王はゴルデリア姫の志を知り、愛情益切に相成りければレア王より姫を申受け同行して佛蘭西國に皈られける、姫の父君と訣別せらるゝや、姉君二人に呉々も父君に奉仕し奉り孝行を盡されべき様願はれけれども、二人の姫は何を小癪なと云はぬ計に却て妹の不禮を咎めたり。

レア王は、領地は悉く二人の姫に分與し、今は心安し是よりは順番に二人の姫に世話をさせ、政治の心配を離れ。安樂に餘年を送らんものと、先づ長女ゴチリルの方に往きけるに先日の言に似もやらず、殆んど食客の如き取扱にして、姫の家來に至るまで王に對し無禮一方ならざりければ、王は大に怒り次の姫レーガンの方に赴かれけるに、前よりは更に不親切なる仕打多く、王の爲め僅に百人の兵卒を養ふとさえ快よくなさず、王は怒りに堪え兼ね前の姫の方に往けば受付けず、王は悲歎遣る方なく今は第三の姫の事を思ひ出し懷しく思ひしが、最初コルデリア姫に對したる處置に愧らひて往きもせでありしが、是より先きケント侯は微服して王の安否を伺はんと國境に入り來り、此

生徒募集廣告

今般本校ニ於テ生徒募集候條年齢十三年以上高等小學科以上ノ學力アリテ入學志願ノ女子ハ願書ニ履歴書ヲ添ヘ本月二十日迄ニ本校ニ差出スヘシ但詳細ノ儀ハ本校若クハ府廳學務課ニ就キ承合スヘシ

廿二年一月

京橋區小田原町四丁目八番地

東京府高等女學校

女子生徒募集

◎普通學を卒り自在に意思を綴り得る者
◎熱心篤志凡そは中途廢絶の憂へ無き者
◎通信教授所謂自宅獨習生は御斷り申す
◎成効の見込無き者は一月内に謝絶致す
◎束脩五拾錢月謝五十錢すべて前納とす
◎資格を全備せざる間は卒業證を與へず

下谷車坂町七拾一番地

速記法女子研究會

講師 但馬與次郎 外男子一名女子一名

女子敬愛學校生徒募集

本校ハ主トシテ和洋服裁縫編物及ヒ英語學ヲ教授ス但シ時々修身學及ヒ婦女日常ノ心得ニ就キ口授スルコトアルベシ亦タ漢學數學ノ教授モ生徒ノ望ニ應ス

芝區兼房町十三番地

女子敬愛學校

交詢案内

（催促する勿れ 郵券十錢添へ本社に申來れ）

● 雇ひたき方（甲）

十一 學婢 年齢十五六位のキリスト教信徒にして[illegible]の業に從事し傍ら英學針物等の心得ありて給料は[illegible]所あり

十二 下婢 年齢廿歳より五十歳迄の基督信者を雇入度者あり

十四 裁縫 年齢[illegible]より三十年までにして[illegible]なり裁縫な心得たるものを雇ひたし[illegible]地方なり

十五 召使 [illegible]年少女子を雇ひたし

十六 召使 [illegible]の手助けとなるべき年少の女子を雇ひたき所あり[illegible]の御内なり

十七 下婢 [illegible]月給は[illegible]一家にて家族五人

● 雇はれたき方（乙）

六 奉公 地方[illegible]にて[illegible]何地にてもよろし

七 裁縫 [illegible]のふち縫の如きにて

十三 教師 [illegible]の御内に

十四 洋行 [illegible]の小間使ひとなりて[illegible]

一九 召使 裁縫の教[illegible]の者に雇はれたし

二〇 裁縫 年齢十四[illegible]方の御方之内に小間使に雇はれたし[illegible]給料は不申受

二四 奉公 [illegible]の生れつきにて華族[illegible]

二五 裁縫 裁縫は和服に和服にも巧なり學校若しくは華族其他[illegible]の御内に雇はれたし

二六 學婢 [illegible]學校又は令嬢方のお付きに[illegible]無給にてよろしと

● 喜びのめぐみ

十二 家婢 甲第十二號は先方にて雇入れになりたり

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

○○明治女學校生徒募集廣告

本校第一學期を終りたるを以て新入生徒の入學を許しかつ寄宿生を募る御望の方は至急御申込可有之候
但し新入生徒は小學校卒業之者か若くは之と同樣の學力を有する者に限る○規則書御望の方は郵券二錢御送附あれ
東京麹町區飯田町三丁目三十二番地

私立 明治女學校

新年の御祝詞申納め候

芝南佐久間町二丁目一番地

私立 東京女學

始業幷女生徒募集

來七日より始業候に付寄宿生は其前歸學し通學生は同日より登學すべし●本年より改正規則實行候に付寄宿通學生及幼年生高等科生共二百名ノ入學ヲ許ス至急申込アレ

芝南佐久間町二丁目一番地

私立 東京女學

校長 伯爵 庭田胤子

鈴木弘恭大人著
女學校用讀本

源氏物語抜萃

初帙五册

紫式部女史の才筆にして此物語の名文なる事は既に數百年前より江湖の知る所なり今や文學の道長足の進歩を爲し全國の各校に於て中學以上の和文學科にはまづ土佐十六夜の諸日記幷に竹取物語徒然草等の書を用ゐると雖も獨り此書を漏したるは甚だ口惜しき事なれど是他なし其の册數の鴻淡なると叙事の猥褻に渉る所多きとの二事を以て省きたるを鈴木大人甚絶ぬことに思ひてその猥褻に渉る卷々を省き册數を减じて專ら現今の女學校用にとて物せられたるは即ち此抜萃ありかゝる良書世に用たるゝれ各女學校の生徒諸君能く熟讀してその流暢の才筆を學びその名手の文法に則とり給はゞ必ず第二の式部女史世に見はれ玉はん事疑ふべきに非るなり江湖の諸君賢覽を垂れて試みたまへ

日本橋區本町

中外堂

發兌					
一月	五日	十二日	十九日	廿六日	
二月	二日	九日	十六日	廿三日	
三月	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
四月	六日	十三日	二十日	廿七日	

定價			
一册	六錢	郵税 一錢	(但府內無郵税)
十册	五十八錢	郵税 十錢	(同前)
半年分	一圓四十三錢	府外は	一圓六十九錢
一年分	二圓六十錢	府外は	三圓十二錢

廣告

一行 一回 前金拾錢 (但廿七字詰)
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引
十行以上は一割引。二十行以上は二割引。四十行以上は三割引。
物の廣告は[illegible]
書籍[illegible]
特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切料を要せず但し紙面半頁以上半頁分の廣告に十部を附するの割合を定む

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price sen. By post yen 1.69 six months, yen 3.12 per annum, in advance.
Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B Hiyoshichō, Shinbashi, Tōkyō, Japan.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町段々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町[illegible]社支店 [illegible]

明治二十二年一月十八日印刷
明治二十二年一月十九日出版

編輯兼發行者 東京京橋區日吉町八番地寄留 巖本善治
印刷者 東京芝區源助町十一番地寄留 森田豐

發行所 東京京橋區日吉町八番地 女學雜誌社

遞信省認可

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

○○明治女學校生徒募集廣告

本校第一學期を終りたるを以て新入生徒の入學を許しかつ寄宿生を募る御望の方ハ至急御申込可有之候
但し新入生徒ハ小學校卒業之者か若くハ之と同樣の學力を有する者に限る○規則書御望の方は郵劵二錢御送附あれ

東京麹町區飯田町三丁目三十二番地

明治女學校

新年の御祝詞申納め候

芝南佐久間町二丁目一番地

私立 東京女學

始業幷女生徒募集

來七日ヨリ始業候ニ付寄宿生ハ其前歸學シ通學生ハ同日ヨリ登學スベシ●本年ヨリ改正規則實行候ニ付寄宿通學生及幼年生高等科生共二百名ノ入學ヲ許ス至急申込アレ

芝南佐久間町二丁目一番地

私立 東京女學

校長 伯爵 庭田胤子

鈴木弘恭大人著
女學校讀本用

源氏物語抜萃 初帙五冊

紫式部女史の才筆にして此物語の名文なる事ハ既に數百年前より江湖の知る所なりて今や文學の道長足の進步を爲し全國の各校に於て中學以上の和文學科にハまづ土佐十六夜の諸日記幷に竹取物語徒然草等の書を用ゐると雖も獨り此書を漏したるハ甚だ口惜しき事なれど是他なし其の冊數の鴻淡なると叙事の猥褻に渉る所多きとの二事を以て省きたるを鈴木大人甚絶ぬことに思ひてその猥褻に渉る巻々を省き冊數を減じて專ら現今の女學校用にとて物せられたるハ即ち此抜萃ありかゝる長書世に出たるハ各女學校の生徒諸君能く熟讀してその流暢の才筆を學びその名手の文法に則とり給ハヾ必ず第二の式部女史世に見ハれ玉ハん事疑ふべきに非るなり江湖の諸君賢覧を垂れて試みたまへ

日本橋區本町

中外堂

發兌					
一月。	五日	十二日	十九日	廿六日	
二月。	二日	九日	十六日	廿三日	
三月。	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
四月。	六日	十三日	二十日	廿七日	

定價

一册。六錢　郵稅。一錢　（但府內無郵稅）
十册。五十八錢郵稅。十錢　（同前）
半年分　一圓四十三錢　府外は　一圓六十九錢
一年分　二圓六十錢　府外は　三圓十二錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲する物には雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部附の割合と定む

一行　一回　（廿七字詰）　前金拾錢
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は協議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price sen. By post *yen* 1.69 six months, *yen* 3.12 per annum, in advance.
Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8 Hiyoshichō, Shinbashi, Tôkyô, Japan.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町鍛々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東壽堂○同日本橋區新[illegible]町長明堂○同京橋區木挽町[illegible]丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目所明堂○同本郷四丁目文叢堂○横濱吉田町角田屋直○同太田町三丁目萬字堂○同日月堂○同本町六丁目日の出[illegible]○京都四條通小橋西へ入[illegible]集堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島本店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町本村文助○尾張國名古屋本町石版社○出雲國松江新町[illegible]進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町堀與號○江州彦根西內大工町新々堂○相州小田原緑町石壽堂○上州高崎田町煥乎堂○土佐國高知本町三丁目樂園堂○熊本文明堂

明治二十二年一月十八日印刷
明治二十二年一月十九日出版

東京京橋區日吉町八番地
發行所 女學雜誌社

東京京橋區日吉町八番地寄留
編輯兼發行者 巖本善治

東京芝區源助町十一番地寄留
印刷者 森田豐